

10月27日(水) 9:15～12:30 A会場

フィリピン海プレートと日本列島—地震・火山から地形形成論まで—

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 川勝 均・井出 哲・三好崇之・山野 誠

- 9:15 A11-01 フィリピン海プレート沈み込みと西南日本：瀬戸内海はなぜそこにあるのか？  
°川勝 均(東大地震研)・井出 哲(東大理)
- 9:30 A11-02 西南日本下の断裂したフィリピン海プレート  
°井出 哲(東大理)・汐見勝彦(防災科研)・望月公廣・利根川貴志(東大地震研)・木村 学(東大理)
- 9:45 A11-03\* レシーバ関数解析によるフィリピン海スラブ形状モデルの再検討 ～紀伊水道下でのスラブ断裂の可能性～  
°汐見勝彦(防災科学技術研究所)・井出 哲(東京大学大学院理学研究科)  
望月公廣(東京大学地震研究所)・木村 学(東京大学大学院理学研究科)
- 10:00 A11-04 西南日本における地殻・最上部マントルの散乱強度分布  
°利根川貴志・川勝 均(東大地震研)
- 10:15 A11-05\* 西南日本のダイナミクス：フィリピン海プレートの回転とスラブのバックリング  
°岩森 光(東京工業大学)・松山健志(東京大学)
- 10:30 A11-06 フィリピン海プレートの低角斜め沈み込みに伴う鮮新世以降の近畿三角帯の沈降運動と水平短縮  
°石山達也(東北大地学)・佐藤比呂志・加藤直子(東大地震研)
- 10:45 休憩
- 11:00 A11-07 湾曲するフィリピン海スラブの起震応力場の成因  
°三好崇之・汐見勝彦・浅野陽一(防災科研)
- 11:15 A11-08 西南日本の応力場の成因 —断層の深部延長のすべりによる？—  
°飯尾能久(京大・防災研)
- 11:30 A11-09 日本列島域のプレート間カップリング、地殻応力、及び構造運動  
°松浦充宏(統数研)・橋本千尋・寺川寿子(名大)・野田朱美(構造計画)
- 11:45 A11-10 紀伊半島沖南海トラフ底の熱流量分布と沈み込むプレートの温度構造  
°山野 誠(東大地震研)・濱元栄起(埼玉環境科学セ)・後藤秀作(産総研)
- 12:00 A11-11 西南日本におけるフィリピン海プレートの沈み込みの2次元温度モデリング～ホットプリューム、降伏応力、削剥の効果～  
°隅倉陽一郎(九大・理・地球惑星)・吉岡祥一(神戸大・都市安全セ/理・地球惑星)  
松本拓己(防災科研)・中島淳一(東北大・理・予知セ)
- 12:15 A11-12 フィリピン海プレートの沈み込みと関東地方の地震テクトニクス  
°中島淳一・長谷川昭・海野徳仁・出町知嗣(東北大)

10月27日(水) 9:15～12:30 B会場

強震動・地震災害

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 加藤研一・森川信之・池浦友則・鈴木 亘

- 9:15 B11-01 強震動予測手法に関するベンチマークテスト(その3:理論的手法)  
°久田嘉章(工学院大学)・永野正行(東京理科大学)  
野津 厚(港湾空港技術研究所)・宮腰 研(地域地盤環境研究所)

\*は招待講演

- 9:30 B11-02 強震動予測手法に関するベンチマークテスト (その4:統計的グリーン関数法)  
 °加藤研一(小堀鐸二研究所)・川辺秀憲・釜江克宏(京都大学)・吉村智昭(大成建設)・久田嘉章(工学院大学)
- 9:45 B11-03 強震動予測手法に関するベンチマークテスト (その5:数値解析手法)  
 °吉村智昭(大成建設)・永野正行(東京理科大)・青井 真(防災科研)  
 川辺秀憲・上林宏敏(京都大)・早川 崇(清水建設)・久田嘉章(工学院大)
- 10:00 B11-04 統計的グリーン関数法による破壊伝播効果の予測  
 °増田 徹(東京大学地震研究所)
- 10:15 B11-05 地震動予測地図のための上下動統計的グリーン関数法の検討  
 °森川信之・先名重樹・藤原広行(防災科研)・宮腰淳一(清水建設)
- 10:30 B11-06 補正経験的グリーン関数を用いた波形合成法に基づく強震動評価 - 2005年宮城県沖地震への適用 -  
 °西條裕介・司 宏俊(構造計画研究所)・栗田勝実(都立産業高専)・入倉孝次郎(愛知工業大学)
- 10:45 休憩
- 11:00 B11-07 Source rupture process and strong motion simulation of the Mw8.8, 2010 Chile Mega earthquake  
 °Nelson PULIDO (NIED), Yuji Yagi, Naoki Nishimura (U. of Tsukuba), Hiroyuki Kumagai (NIED)
- 11:15 B11-08 曲面断層を用いた震源過程解析  
 °鈴木 亘・青井 真(防災科研)・関口春子(京大防災研)
- 11:30 B11-09 地震波形モデリングに基づく大阪堆積盆地3次元基盤面形状の推定:複数の地震記録を用いたアプローチ  
 °岩城麻子・岩田知孝(京大防災研)
- 11:45 B11-10 福島県~新潟県のK-NET・KiK-netサイトにおける地震動の相対地盤増幅率と距離減衰特性  
 °池浦友則(鹿島技研)
- 12:00 B11-11 島弧の構造と強震動:福島県沖のスラブ内地震とプレート境界地震による強震動の比較  
 °寛 楽磨(神戸大・理)
- 12:15 B11-12 全国周期別ゆれやすさマップの試作 -手法と距離減衰の特徴-  
 °松浦律子・古村美津子(地震予知振興会)・鈴木晴彦(応用地質)

10月27日(水) 9:15~10:45 C会場

岩石実験・地殻応力

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 増田幸治・佐藤隆司

- 9:15 C11-01 断層強度の長期的弱化に対する水の影響  
 °増田幸治(産総研)・新井崇史(NITE)・藤本光一郎(東京学芸大)・高橋美紀・重松紀生(産総研)
- 9:30 C11-02 弾性波速度の周波数依存性(1)  
 °川方裕則・土井一生・吉光奈奈(立命館大学)
- 9:45 C11-03 摩擦すべりから完全塑性流動をつなぐ経験的構成則  
 °嶋本利彦(地質研究所)・野田博之(Caltech)
- 10:00 C11-04 三軸圧縮応力下の岩石のAE活動に及ぼす封圧の周期的微小変動の影響  
 °佐藤隆司・雷 興林(産総研)
- 10:15 C11-05 応力多重逆解法を用いた長野県西部地域の応力場解析  
 °千葉慶太・飯尾能久(京大防災研)・堀内茂木(防災科研)  
 久保篤規(高知大理地震観)・山路 敦(京大理地球惑星)・大坪 誠(産総研地質情報)
- 10:30 C11-06 光弾性物質による砂山内部構造の定量的解析  
 °吉岡直人(深田地質研究所)

10月27日(水) 11:00～12:30 C会場

地震計測・処理システム  
(講演時間 12分・質疑応答 3分)  
座長 植平賢司・堀 輝人

- 11:00 C11-07 新規開発したケーブル式海底地震観測システムと日本海粟島沖への設置  
°篠原雅尚・金沢敏彦・酒井慎一・佐野 修・歌田久司・塩原 肇  
森田裕一・山田知朗(東大地震研)・山崎克之(長岡技術科学大学)
- 11:15 C11-08 WIN システムの64bit 環境への対応  
°植平賢司(九大理院)・卜部 卓・鶴岡 弘・中川茂樹(東大地震研)
- 11:30 C11-09 応力地震波の観測について  
°石井 紘・浅井康広(東濃地震研)
- 11:45 C11-10 F-net における STS-1 地震計の観測維持  
°村上寛史(予知振興会)・松本拓己・松林弘智・風神朋枝(防災科研)・高木六夫(株式会社アムコ)
- 12:00 C11-11 アレイ観測データの中の地震波の個別推定問題  
°高橋宏政(東大新領域)・鷹野 澄(東大情報学環/地震研)
- 12:15 C11-12 極限環境における観測をめざしたレーザー干渉式広帯域地震計の性能評価  
°堀 輝人・新谷昌人(東大地震研)・鹿熊英昭(地震予知振興会)  
小林直樹・白石浩章・岡田達明・佐藤毅彦(ISAS/JAXA)・村上英記(高知大)

10月27日(水) 9:15～12:30 D会場

地震活動  
(講演時間 12分・質疑応答 3分)  
座長 加藤 護・行竹洋平・久家慶子・松本 聡

- 9:15 D11-01 データリサンプリング法を用いた地震活動度の分散の推定  
°加藤 護(京大院人環)
- 9:30 D11-02 リンク法による内陸地震のクラスタリングとモニタリング  
°野口伸一(防災科研)
- 9:45 D11-03 日本列島における地震時応力減少と地震活動の低下  
°廣瀬志保・遠田晋次(京大防災研)
- 10:00 D11-04 速度・状態依存摩擦構成則による余震活動モデリング -余効変動を取り入れた場合-  
°岩田貴樹(早稲田大学)
- 10:15 D11-05 沈み込み帯の地震活動の深さ分布とプレート境界低角逆断層地震の下限  
°久家慶子(京大理)
- 10:30 D11-06 釧路沖の中規模繰り返し地震活動  
°佐鯉央教・松山輝雄・平山達也・山崎一郎・山本剛靖(札幌管区气象台)  
一柳昌義・高橋浩晃(北大理・地震火山センター)
- 10:45 休憩
- 11:00 D11-07 2003年十勝沖地震前の地震活動静穏化を説明するプレスリップモデル  
°勝俣 啓(北大理)
- 11:15 D11-08 長岡平野西縁断層帯における微小地震観測網の構築  
°関根秀太郎・澤田義博・佐々木俊二・阿倍信太郎・田澤芳博(地震予知振興会)

- 土方勝一郎・西村 功・植竹富一（東京電力）
- 11：30 D11-09 伊豆衝突帯北縁部における詳細な震源及びメカニズム解分布  
 °行竹洋平（神奈川県温地研）・武田哲也（防災科研）・吉田明夫（神奈川県温地研）
- 11：45 D11-10 伊豆東部群発地震活動の推移予測  
 横田 崇・長谷川洋平・舟崎 淳・宮岡一樹・木村久夫（気象庁）  
 鈴木良典・北川貞之（文部科学省）・今給黎哲郎・矢来博司（国土地理院）・島崎邦彦（東京大学）
- 12：00 D11-11 東海と東南海地域に共通な地震活動パタンの再現  
 °松村正三（防災科研）
- 12：15 D11-12 松代群発地震の初期発展過程について  
 °浜田信生・野坂大輔（気象庁精密地震）・小林正志（大阪管区気象台）  
 吉川一光（気象庁）・石垣祐三（横浜地方気象台）・田利信二郎（文部科学省）

**10月27日（水）13：30～14：50 A会場**

**若手学術奨励賞記念講演**  
 （講演時間 20 分・質疑応答 5 分）  
 座長 篠原雅尚

- 13：30 会長挨拶  
 平原和朗（日本地震学会会長）
- 13：35 A12-01\* マルチスケール性を考慮した地震破壊の理論および地質データ解析に基づいた研究  
 °安藤亮輔（産総研活断層セ）
- 14：00 A12-02\* 小繰り返し地震を用いたプレート境界地震の発生機構の研究  
 °内田直希（東北大理）
- 14：25 A12-03\* 広帯域地震動予測における震源のモデル化  
 °三宅弘恵（東大地震研）

**10月27日（水）15：00～17：45 A会場**

**フィリピン海プレートと日本列島—地震・火山から地形形成論まで—**  
 （講演時間 12 分・質疑応答 3 分）  
 座長 高橋成実・西村卓也・仲西理子・尾鼻浩一郎

- 15：00 A12-04 伊豆・小笠原弧の地殻進化とテクトニクス  
 °高橋成実・小平秀一・巽 好幸・山下幹也・佐藤 壮・野 徹雄・三浦誠一  
 海宝由佳・瀧澤 薫・野口直人・金田義行（海洋研究開発機構）
- 15：15 A12-05 伊豆・小笠原弧の衝突による関東地方の長期地殻変動パターンの時間発展シミュレーション  
 °橋間昭徳・佐藤利典・伊藤谷生・宮内崇裕（千葉大学・地球生命圏科学専攻）
- 15：30 A12-06 GPS データに基づく伊豆背弧拡大速度と伊豆マイクロプレートの運動の推定  
 °西村卓也（地理院）
- 15：45 A12-07 GPS 歪みデータの逆解析によるプレート境界のすべり遅れ分布の推定：関東・東海地域への適用  
 °野田朱美（構造計画研究所）・松浦充宏（統計数理研究所）

\*は招待講演

- 16:00 A12-08 山梨県東部直下の地震に見られる P 波後続波から推定されるフィリピン海プレート上面付近の構造  
 °朱里泰治・津村紀子（千葉大学）
- 16:15 休憩
- 16:30 A12-09 日向灘に沈み込むフィリピン海プレートの形状  
 °仲西理子・小平秀一・藤江 剛・尾鼻浩一郎・高橋 努・山本揚二郎  
 佐藤 壮・藤森英俊・柏瀬憲彦・金田義行（JAMSTEC）
- 16:45 A12-10 日向灘の地震活動と地震波速度構造  
 °山本揚二郎・尾鼻浩一郎・高橋 努・仲西理子・小平秀一・金田義行（海洋機構）
- 17:00 A12-11 日向灘で繰り返し発生するスロースリップイベント  
 °矢来博司・小沢慎三郎（国土地理院）
- 17:15 A12-12 広帯域海底地震計によって観測された紀伊半島沖の超低周波地震活動  
 °尾鼻浩一郎・伊藤亜妃・杉岡裕子・石原 靖・中村武史・末次大輔・小平秀一  
 木下正高・荒木英一郎・金田義行・深尾良夫（海洋研究開発機構）・岡元太郎（東京工業大学）
- 17:30 A12-13 超低周波地震の発生過程の解明に向けて：近地項波形から検出される超低周波地震の立ち上がり時間と静的変異場  
 °石原 靖・杉岡裕子（海洋研究開発機構）・岡元太郎（東工大）  
 中村武史・尾鼻浩一郎・伊藤亜妃・小平秀一・末次大輔・木下正高・深尾良夫（海洋研究開発機構）

10月27日（水）15:00～17:45 B会場

強震動・地震災害

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 野津 厚・室谷智子・佐藤智美・干場充之

- 15:00 B12-01 地表で痕跡を認めにくい地震を考慮した主要活断層帯の地震発生数  
 °奥村俊彦（清水建設）・藤原広行（防災科研）
- 15:15 B12-02 内陸の長大断層に関するスケーリング則の検討  
 °室谷智子（文部科学省）・松島信一（京大防災研）  
 吾妻 崇（産総研）・入倉孝次郎（愛知工大）・北川貞之（文部科学省）
- 15:30 B12-03 内陸地殻内地震の特性化震源モデルの高度化 – 短周期レベルと地震モーメントの関係 –  
 °入倉孝次郎（愛知工業大学）・松元康広・司 宏俊（構造計画研究所）
- 15:45 B12-04 海溝型巨大地震による周期 1-5 秒の帯域の地震動の予測手法について  
 °野津 厚（港湾空港技術研究所）
- 16:00 B12-05 統計的グリーン関数法による想定東南海地震の広周期帯域の強震動予測  
 °宝音 囿（京大工）・那仁満都拉（飛鳥技研）・川瀬 博・松島信一（京大防災研）
- 16:15 休憩
- 16:30 B12-06 破壊伝播効果とラディエーションパターンの経験的補正係数モデル  
 °佐藤智美（清水建設技術研究所）
- 16:45 B12-07 地震基盤における震源近傍まで適用できる応答スペクトル距離減衰式の整備に関する研究  
 °司 宏俊（構造計画研究所）・堤 英明（JNES）・翠川三郎（東京工業大学）  
 野田朱美・正月俊行（構造計画研究所）
- 17:00 B12-08 震源近傍に特化した距離減衰式における最適な距離指標の検討  
 °西村利光・宮腰 研（地盤研究財団）
- 17:15 B12-09 B- Δ 法の即時性向上方法  
 °野田俊太・山本俊六・佐藤新二・岩田直泰・是永将宏（鉄道総研）

17:30 B12-10 海溝型M8クラスの地震の際の緊急地震速報  
°干場充之・岩切一宏・大竹和生 (気象研究所)

10月27日(水) 15:00～17:45 C会場

地球及び惑星の深部構造と物性

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 武井康子・小平秀一

- 15:00 C12-01 東アジア Big mantle wedge の西端：華北クラトンの地震構造とテクトニクス  
°趙 大鵬 (東北大・理)
- 15:15 C12-02 広帯域海底地震計データへの地震波干渉法適用による海洋下の短周期 Love/Rayleigh 波位相速度の測定  
°竹尾明子・西田 究・川勝 均・一瀬建日・塩原 肇・金沢敏彦 (東大地震研)・杉岡裕子 (JAMSTEC)
- 15:30 C12-03 海洋最上部マントル超高速度層  
°小平秀一・藤江 剛・野口直人・山下幹也・佐藤 壮・高橋 努  
高橋成実・山本揚二郎・海宝由佳 (JAMSTEC)・西沢あずさ (海上保安庁)
- 15:45 C12-04 震源 MT を考慮したより短周期までの地震波形インバージョン – インド下最下部マントル構造 –  
°小西健介 (東大地惑)・河合研志 (東工大地惑・パリ地球物理研究所)  
ロバートゲラー (東大地惑)・富士延章 (ミディ・ピレネー観測所)
- 16:00 C12-05 太平洋下最下部マントルにおける上昇流の地震学的証拠  
°河合研志 (東工大)・ゲラーロバート (東大)
- 16:15 休憩
- 16:30 C12-06 大陸広帯域地震計観測網を用いた西太平洋下における最下部マントル S 波速度不均質構造  
°出原光暉 (東大地震研)・田中 聡 (JAMSTEC)・竹内 希・川勝 均・宮川幸治  
利根川貴志・入谷良平 (東大地震研)・NECESSArray プロジェクトチーム
- 16:45 C12-07 太平洋下最下部マントルの微細全体像  
°竹内 希 (東大地震研)
- 17:00 C12-08 粒界すべりのモデル化：地震波の速度分散と減衰の理解にむけて  
°武井康子・マッカーシークリスティーン (東大地震研)
- 17:15 C12-09 低周波実験による部分熔融サンプルの非弾性特性  
°マッカーシークリスティーン・武井康子 (東大地震研)
- 17:30 C12-10 マントルウェッジ内小規模対流による格子選択配向  
°森重 学・本多 了 (東大地震研)

10月27日(水) 15:00～17:45 D会場

地震活動, 地震一般・その他

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 勝俣 啓・山田真澄・石川有三・熊谷博之

地震活動

- 15:00 D12-01 2000年鳥取県西部地震の余震における相似地震分布の特徴  
°林未佐喜・平松良浩 (金沢大学)
- 15:15 D12-02 福岡県西方沖地震の余震発震機構特性と応力場モデル化の試み

- °松本 聡・植平賢司・松島 健・清水 洋 (九大地震火山センター)
- 15:30 D12-03 相似地震解析から推定された日向灘プレート境界における準静的すべりの時空間変化  
°山下裕亮・清水 洋 (九大地震火山セ)・後藤和彦 (鹿大南西島弧)
- 地震一般・その他**
- 15:45 D12-04 「はやぶさ」リエントリー起源衝撃波の地上観測  
°石原吉明 (国立天文台)・山本真行 (高知工科大)・平松良浩 (金沢大)  
古本宗充 (名古屋大)・藤田和央 (宇宙航空研究開発機構)
- 16:00 D12-05 地震記録による 2010 年 8 月 7 日の火球の軌道決定  
°山田真澄 (京大次世代)・Jim Mori (京大防災研)
- 16:15 休憩
- 16:30 D12-06 空中電位と地震の関係  
°石川有三・吉武由紀・長町信吾 (気象庁地磁気観測所)
- 16:45 D12-07 阿蘇火山長周期微動の地震モーメントの特徴  
°松林弘智・松本拓己 (防災科研)
- 17:00 D12-08 火山性爆発地震における移動震源  
°熊谷博之 (防災科研)・パブロ パラシオス・マリオ ルイス・ウゴ イェベス (IG-EPN)・小園誠史 (防災科研)
- 17:15 D12-09 地震発生後の地震保険の契約増加の推測  
°片山雅樹・鈴木秀一 (日本地震再保険)
- 17:30 D12-10 地震動波形を用いた地震の音の作成法  
°平井 敬・福和伸夫 (名大院環境)

## 10 月 28 日 (木) 8:45 ~ 10:30 A 会場

### フィリピン海プレートと日本列島—地震・火山から地形形成論まで—

(講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 佐藤利典・日野亮太

- 8:45 A21-01 関東アスペリティプロジェクト —モニタリングが目指すもの—  
°佐藤利典 (千葉大)・篠原雅尚 (地震研)・芝崎文一郎 (建築研)・山本由弦 (JAMSTEC)  
斎藤実篤 (JAMSTEC)・小林励司 (鹿児島大)・山野 誠 (地震研)・伊藤久男 (JAMSTEC)  
山田泰広 (京大)・川村喜一郎 (深田研)
- 9:00 A21-02\* 南海トラフ地震発生帯掘 (NanTroSEIZE) の成果と今後の展開 —浅部分岐断層の活動度と浅部応力場—  
°木下正高・荒木英一郎・斎藤実篤 (海洋研究開発機構)・Demian Saffer (Penn State Univ.)  
Lisa McNeill (Univ. Southampton)・Tim Byrne (Univ. Connecticut)  
Mike Underwood (Univ. Missouri)・Harold Tobin (Univ. Wisconsin)  
芦寿一郎・木村 学 (東京大学)・IODP Expeditions 319&322 Science Party
- 9:15 A21-03 S 波速度異方性と応力 — NanTroSEIZE319 の結果—  
°伊藤久男・真田佳典・木下正高 (JAMSTEC)・319 乗船研究者
- 9:30 A21-04 Splay Faults in the 1946 Nankai Earthquake Rupture Zone off Kii Peninsula, SW Japan  
°朴 進午 (東大大気海洋研)・小平秀一 (海洋研究開発機構)
- 9:45 A21-05 鉛直地震探査 (VSP) による熊野海盆の地震波速度異方性と応力場  
°日野亮太・山本清彦 (東北大・理)・辻 健 (京大・工)・真田佳典 (CDEX)  
朴 進午 (東大・大気海洋研)・野 哲郎・荒木英一郎・木下正高 (JAMSTEC)

---

\*は招待講演

- Nathan Bangs (Texas 大)・Roland von Huene (California 大)・Gregory Moore (Hawaii 大)
- 10:00 A21-06 長期海底地震観測と陸上定常観測の統合トモグラフィー解析による東南海・南海地震震源境界域における地震活動と地震波速度構造  
 °望月公廣・中東和夫・山田知朗・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦(東大地震研)  
 植平賢司・清水 洋(九大地震火山セ)
- 10:15 A21-07 詳細DEM画像から探る相模トラフ～紀伊半島沖の海底活断層  
 °渡辺満久(東洋大学)・中田 高・後藤秀昭(広島大)・鈴木康弘(名古屋大学)・隈元 崇(岡山大)  
 徳山英一・佐竹健治(東京大)・加藤幸弘・西澤あずさ・泉 紀明・伊藤弘志(海上保安庁)  
 植木俊明・梶 琢(海洋先端技術研究所)

**10月28日(木) 10:45～12:15 A会場**

**地殻構造**

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 西澤あずさ・雑賀 敦

- 10:45 A21-08 神縄・国府津-松田断層帯の構造とその活動様式  
 °岩崎貴哉・佐藤比呂志(東京大学地震研究所)  
 石山達也(東北大学理学研究科)・阿部 進(地球科学総合研究所)
- 11:00 A21-09 稠密自然地震観測による紀伊半島南部下の地震波速度構造  
 °蔵下英司・飯高 隆・雑賀 敦(東大地震研)・津村紀子(千葉大理)  
 酒井慎一・加藤愛太郎・岩崎貴哉(東大地震研)
- 11:15 A21-10 地震計アレイ観測による紀伊半島南部の深部低周波微動域の異方性構造  
 °雑賀 敦・加藤愛太郎・蔵下英司・飯高 隆(東大地震研)  
 津村紀子(千葉大理)・岩崎貴哉・酒井慎一・平田 直(東大地震研)
- 11:30 A21-11 沈み込みに伴う海洋プレートの構造変化 -千島海溝沖 構造探査-  
 °藤江 剛・小平秀一・山下幹也・佐藤 壯・高橋 努・高橋成実・野口直人(JAMSTEC)
- 11:45 A21-12 沖大東海嶺の地震波速度構造  
 °西澤あずさ・金田謙太郎・及川光弘・片桐康孝(海上保安庁海洋情報部)
- 12:00 A21-13 オントンジャワ海台における MCS・OBS 構造探査  
 °三浦誠一・野口直人・小平秀一・深尾良夫(海洋研究開発機構)・コフィン-ミラード(タスマニア大学)  
 カワグル-サイモン(パプアニューギニア大学)・ヴェラヴァ-ロナルド(パプアニューギニア鉱物資源庁)

**10月28日(木) 8:45～10:30 B会場**

**強震動・地震災害**

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 青井 真・鷹野 澄

- 8:45 B21-01 2009年駿河湾の地震における被害の拡大・抑止要因  
 °林 能成(静岡大学防災総合センター)・鈴木雄大(静岡大学教育学部総合科学)
- 9:00 B21-02 地震に起因する人間被害の学際的研究(6)  
 °太田 裕(東濃地震科研)
- 9:15 B21-03 1自由度系の地震速度応答振幅に基づく震度の提案

°篠 泉 (足利工業大学)

- 9 : 30 B21-04 常時微動観測による建物の応答特性の抽出 - 四川地震の被害建物における常時微動観測 -  
°王 欣 (愛工大大学院)・入倉孝次郎 (愛工大防災センター)・正木和明 (愛工大都市環境)
- 9 : 45 B21-05 高感度 IT 強震計を用いた常時微動観測による建物振動の可視化  
°鷹野 澄・伊藤貴盛 (東大情報学環/地震研)
- 10 : 00 B21-06 動電型加速度計 (JEP-6A3) の長周期応答の信頼性評価 - 速度計 (VSE-355) との比較観測 -  
°工藤一嘉 (日大生産工)・南雲秀樹・真下 貢 (東電設計)  
植竹富一・杉山達也・貫井 泰 (東京電力)
- 10 : 15 B21-07 トランポリン効果の再現実験  
°青井 真・功刀 卓・藤原広行 (防災科研)

10月28日(木) 10:45 ~ 12:30 B会場

地震活動評価に基づく地震発生予測システムの構築に向けて

(講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 鶴岡 弘・Danijel Schorlemmer

- 10 : 45 B21-08 Report on prospective evaluation of the 3-month CSEP-Japan earthquake forecasts  
° H. Tsuruoka, K. Z. Nanjo, S. Yokoi, N. Hirata (ERI, Univ. of Tokyo)
- 11 : 00 B21-09\* The Collaboratory for the Study of Earthquake Predictability : Perspectives on Evaluation and Testing for Seismic Hazard  
° Danijel Schorlemmer (SCEC, USC) , David Jackson (UCLA) , Thomas Jordan (SCEC, USC)
- 11 : 15 B21-10\* New developments of the Collaboratory for the Study of Earthquake Predictability (CSEP) Testing Centers  
° Maria Liukis, Danijel Schorlemmer, John Yu, Phil Maechling (SCEC, USC) ,  
Jeremy Zechar (ETH) , Thomas H. Jordan (SCEC, USC) ,  
Fabian Euchner (ETH) , the CSEP Working Group
- 11 : 30 B21-11\* CSEP-EU : Forecasting Experiments for Italy at the European CSEP testing center  
° Fabian Euchner, Stefan Wiemer, Maximilian J. Werner (ETH Zurich) ,  
Warner Marzocchi (INGV Rome) , Danijel Schorlemmer, Maria Liukis, John Yu,  
Philip Maechling, Thomas H. Jordan (SCEC Los Angeles)
- 11 : 45 B21-12 Operational Probability Forecast of Foreshocks 前震の確率予報の運用  
°尾形良彦 (統計数理研究所)
- 12 : 00 B21-13 速度・状態依存則を取り入れた応力伝播モデルの地震予測への適用  
°遠田晋次 (京大防災研)・エネスクボグダン (防災科研)
- 12 : 15 B21-14 A database of stochastic declustered catalogs  
°庄 建倉 (統数研)

---

\*は招待講演

10月28日(木) 8:45~12:30 C会場

地殻変動・GPS・重力

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 橋本 学・日置幸介・田中愛幸・水藤 尚

- 8:45 C21-01 Xバンド差分干渉SARが捉えたフィリピン共和国マニラ首都圏のクリープ性変位  
° 出口知敬(日鉄鉱コンサル)・衣笠善博(地震予知振興会)・栗田勝実(都立産技高専)  
大村 誠(高知女子大学)・奥 智也(ERSDAC)
- 9:00 C21-02 4年間のALOS/PALSAR観測から見た四国の変動  
° 橋本 学(京大防災研)
- 9:15 C21-03 2008年于田地震(M7.2, 新疆/中国)に伴う地震時地殻変動と非平面断層モデル  
° 古屋正人・安田貴俊(北海道大学理学研究院)
- 9:30 C21-04 PALSAR干渉画像による2010年青海省の地震に伴う地殻変動  
° 飛田幹男・西村卓也・小林知勝(国土地理院)
- 9:45 C21-05 2010年チリ地震はジオイドを变形させたか  
° 日置幸介・松尾功二(北大院理)
- 10:00 C21-06 2010年チリ地震後の重力変化は陸水変動と分離できるか  
° 松尾功二・日置幸介(北大院理)
- 10:15 C21-07 2010年チリ地震(Mw8.8)は極を動かしたか  
° 小林裕太・日置幸介(北海道大・院理)
- 10:30 休憩
- 10:45 C21-08 東海スロースリップ域で2004年から2009年に観測された重力変化と高压流体の流れの検出可能性  
° 田中愛幸・加藤愛太郎・菅野貴之(東大地震研)・付 広裕(中国地震局)  
張 新林(東大地震研)・古屋正人(北大)・孫 文科(中国科学院研究生院)  
大久保修平(東大地震研)・松本滋夫(住鉱コンサルタント(株))  
本田昌樹・菅原安宏・植田 勲・日下正明・石原 操(国土地理院)
- 11:00 C21-09 Normal-mode constraints on the afterslip of the Mw=8.8, 2010 Chilean earthquake  
° Toshiro Tanimoto (Univ. of Tokyo, UCSB) and Chen Ji (UCSB)
- 11:15 C21-10 GPS観測による2008年岩手・宮城内陸地震の長期的余効変動  
° 大園真子・三浦 哲・太田雄策・飯沼卓史(東北大・院・理)
- 11:30 C21-11 南薩諸島北部における地殻変動観測  
° 中尾 茂(鹿大理工)・八木原寛・平野舟一郎・後藤和彦(鹿大南西島弧観)
- 11:45 C21-12 GEONETによるフィリピン海プレート上での断層すべりの検知能力  
° 水藤 尚(国土地理院)
- 12:00 C21-13 GPS速度場から推定した南海トラフのすべり欠損分布 - 三角形要素でプレート境界面形状を表現したインバージョン解析 -  
° 平田諒次・田部井隆雄(高知大理)
- 12:15 C21-14 Postseismic and interseismic deformation in Java Trench, Indonesia, deduced from continuous GPS data  
° N. Rahma Hanifa, Fumiaki Kimata, Takeshi Sagiya (Nagoya University),

10月28日(木) 8:45～10:30 D会場

活断層・歴史地震

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 上田圭一・行谷佑一

- 8:45 D21-01 文禄五年(1596)伏見地震における京都盆地での被害分布  
°西山昭仁(東大地震研)
- 9:00 D21-02 1670年寛文越後地震の震源域の見直し  
°石橋克彦
- 9:15 D21-03 宮城県中南部と常磐海岸に見られる巨大津波の地質学的痕跡  
°澤井祐紀・宍倉正展(産総研活断層)
- 9:30 D21-04 3次元バランス法で求めた1993年北海道南西沖地震震源域北部・中部の断層の地下形状  
°木村治夫・岡村行信(産総研活断層セ)
- 9:45 D21-05 断層撓曲におけるTrishearモデルのCIP法シミュレーションによる再現  
°安藤広一・山崎晴雄(首都大学東京)
- 10:00 D21-06 プレート境界であるミャンマーのサガン断層近傍のM7クラス歴史地震(1918年以降)の震源再決定によるサガン断層の地震履歴  
°古川信雄(建築研)・Phyo Maung Maung(ミャンマー気象水文局)
- 10:15 D21-07 Co-seismic strike-slip rupture and displacement produced by the 2010 Mw 6.9 Yushu earthquake, China  
°Aiming Lin, Gang Rao(Shizuoka Univ.), Bing Yan(Nanjing Univ.), Zhikun Ren(Shizuoka Univ.), Dong Jia and Xiaojun Wu(Nanjing Univ.)

10月28日(木) 10:45～12:30 D会場

地盤構造・地盤震動

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 飯田昌弘・林 宏一

- 10:45 D21-08 入力波動場に基づく3次元非線形地盤応答解析法(2)  
°飯田昌弘(東大地震研)
- 11:00 D21-09 PS検層及び鉛直アレー観測記録に基づく地盤の減衰定数の評価手法の検討  
°小林源裕・堤 英明(原子力安全基盤機構)・安藤 誠・鈴木晴彦・林 宏一(応用地質)
- 11:15 D21-10 地盤の減衰定数の評価手法の検討 -ランダム不均質媒質による見かけのQ値-  
°林 宏一・安藤 誠・鈴木晴彦(応用地質)・小林源裕・堤 英明(原子力安全基盤機構)
- 11:30 D21-11 IWTH25 siteの非線形上下動特性  
°田中友香里・木下繁夫(横浜市大)
- 11:45 D21-12 表層地盤の非線形応答特性と地盤パラメタとの関係  
°野口科子(東大情報学環)・笹谷努
- 12:00 D21-13 地表記録のみで構成する表層地盤の擬グリーン関数(その2)  
°西野晴子(横浜市)・木下繁夫(横浜市大)
- 12:15 D21-14 KiK-net 地中強震計設置地点における地盤増幅率の評価  
°赤澤隆士(地盤研究財団)・入倉孝次郎(愛知工業大学)

10月28日(木) 13:30~16:45 A会場

### 地殻構造, テクトニクス

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 佐藤比呂志・青柳恭平・飯高 隆・重松紀生

#### 地殻構造

- 13:30 A22-01 1994年及び1996年屈折・広角反射法データの再解析による九州東部の地殻構造  
°大津 啓・岩崎貴哉(東大地震研)・宮町宏樹(鹿児島大理工)
- 13:45 A22-02 長野県西部群発地震域における3次元浅部比抵抗構造  
°吉村令慧・大志万直人(京大防災研)・笠谷貴史(JAMSTEC)  
飯尾能久(京大防災研)・小村健太郎(防災科研)
- 14:00 A22-03 人工地震探査による跡津川断層近傍の地殻微細構造(その3)  
°飯高 隆・岩崎貴哉・蔵下英司・加藤愛太郎(東大地震研)・山崎文人(名大)・片尾 浩(京大防災研)
- 14:15 A22-04 稠密地震観測網による琵琶湖西岸地域の地殻内反射構造の評価  
°佐々木裕樹・飯尾能久・片尾 浩・三浦 勉・米田 格・澤田麻沙代・中尾節郎・藤田安良(京大防災研)
- 14:30 A22-05 屈折法・広角反射法探査による佐渡島北西沖-西会津地域の地殻・最上部マントル構造  
°佐藤 壮・野 徹雄・高橋成実・小平秀一・金田義行(海洋研究開発機構)  
加藤直子・蔵下英司(東大地震研)・石山達也(東北大理)・越谷 信(岩手大工)  
吉田武義(東北大理)・豊島剛志(新潟大院)・石川正弘(横国大院)・戸田 茂(愛知教育大)  
斎藤秀雄・阿部 進((株)地球科学総合研究所)・佐藤比呂志(東大地震研)
- 14:45 A22-06 ひずみ集中帯地殻構造探査:2010年東山-三島測線速報  
°佐藤比呂志(東大地震研)・阿部 進・斎藤秀雄(地科研)・河合展夫(石油資源)  
加藤直子・岩崎貴哉(東大地震研)・石山達也(東北大)・白石和也(地科研)
- 15:00 休憩
- 15:15 A22-07 地震計アレイ観測による2005年福岡県西方沖地震の震源域における散乱体分布の推定  
°中元真美・松本 聡・松島 健・池端 慶・糸谷夏実・栢橋志郎  
千藏ひろみ・宮崎真大・植平賢司・清水 洋(九大地震火山セ)
- 15:30 A22-08 弾性層厚の3次元不均質による本州の変位・歪・応力速度分布  
°長 郁夫・桑原保人・多田 卓(産総研)
- 15:45 A22-09 地震波アクロス震源を用いた地下CO<sub>2</sub>貯留層の連続監視手法の開発  
°笠原順三(静岡大学)・羽佐田葉子(大和探査)・鶴我佳代子(東京海洋大)

#### テクトニクス

- 16:00 A22-10 東海・近畿地方の坑内温度データ解析  
°田中明子・後藤秀作・小泉尚嗣(産総研)
- 16:15 A22-11 南鳥島周辺海域におけるプレート内火成活動による地殻・マントル構造への影響  
°金田謙太郎・西澤あずさ・森下泰成・及川光弘(海上保安庁)
- 16:30 A22-12 日本列島の東西短縮テクトニクスの粹組み  
°高橋雅紀(産総研地質情報)

10月28日(木) 13:30～15:00 B会場

地震活動評価に基づく地震発生予測システムの構築に向けて

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 楠城一嘉・庄建倉

- 13:30 B22-01 区間推定された地震発生確率予測の検証方法(試案)  
°岡田正実(気象研)
- 13:45 B22-02 地震発生数の影響を受けない地震活動モデルのL-test  
°井元政二郎(防災科研)
- 14:00 B22-03 Analysis of the Completeness Magnitude and Seismic Network Coverage of Japan  
°K. Z. Nanjo, T. Ishibe, H. Tsuruoka (ERI, Univ. Tokyo),  
D. Schorlemmer (SCEC, Univ. South. California), Y. Ishigaki (JMA), and N. Hirata (ERI, Univ. Tokyo)
- 14:15 B22-04 フラクタル次元は地震発生前後に変化するか - 近年日本で発生したいくつかの大地震を例として -  
°長尾年恭・竹内昭洋(東海大予知セ)・鴨川 仁(東京学芸大)
- 14:30 B22-05 The b and c values are decrease functions of shear stress: a model study  
°Takahiro Hatano (ERI, University of Tokyo), Clement Narteau (Institut de physique du Globe de Paris),  
and Peter Shebalin (International Institute of Earthquake Prediction Theory and Mathematical Geophysics)
- 14:45 B22-06 中・四国・近畿地方の大地震の予兆解析:震源、発生時刻、Mの予報  
°武田文秀(武田エンジニアリング)

10月28日(木) 15:15～17:00 B会場

新・地震波形解剖学2 - Hi-net10年 -

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 小原一成・浅野陽一

- 15:15 B22-07 深部低周波微動発見から10年:最新の知見と今後  
°小原一成(東大地震研)
- 15:30 B22-08\* 深部微動の線状構造・継続時間・移動様式・潮汐応答  
°井出 哲(東大・理)
- 15:45 B22-09 西南日本における深部非火山性微動と遠地大地震による表面波の同期現象について(その1)  
°須田直樹・松本紘幸(広島大院理)
- 16:00 B22-10 沈み込み帯における超低周波地震  
°伊藤喜宏(東北大予知セ)・小原一成(東大地震研)
- 16:15 B22-11 F-net 記録の波形相関解析によって明らかになった1998年以降の十勝沖における超低周波地震活動  
°浅野陽一(防災科研)・小原一成(東大地震研)・松澤孝紀・廣瀬 仁(防災科研)
- 16:30 B22-12 日向灘の浅部超低周波地震活動と地球潮汐の関係  
°田中佐千子・松澤孝紀(防災科研)・小原一成(東大地震研)・浅野陽一・廣瀬 仁(防災科研)
- 16:45 B22-13 歪・傾斜記録の同時解析による短期的SSEのモニタリング精度の向上  
°板場智史・北川有一・松本則夫・大谷 竜・小泉尚嗣(産総研)

\*は招待講演

10月28日(木) 13:30～15:00 C会場

**地殻変動・GPS・重力**  
(講演時間 12分・質疑応答 3分)  
座長 田所敬一・木戸元之

- 13:30 C22-01 熊野海盆における海底地殻変動  
°田所敬一(名古屋大)・生田領野(静岡大)・渡部 豪・奥田 隆・永井 悟・江藤周平・藤井昌和(名古屋大)
- 13:45 C22-02 海底地殻変動観測の最近の成果と今後の展望  
°佐藤まりこ・齋藤宏彰・石川直史・吉田 茂・藤田雅之(海洋情報部)・望月将志・浅田 昭(東大生研)
- 14:00 C22-03 海底地殻変動観測の精度向上に向けた取り組みについて  
°石川直史・佐藤まりこ・齋藤宏彰(海上保安庁海洋情報部)・望月将志・浅田 昭(東大生研)
- 14:15 C22-04 AUVと海底ケーブルを利用する海底地殻変動観測  
°望月将志・浅田 昭・浦 環(東京大学)・浅川賢一(JAMSTEC)  
藤田雅之・佐藤まりこ(海上保安庁)・Oscar L. Colombo(NASA)・吉田善吾(東京大学)  
横引貴史・岩瀬良一(JAMSTEC)・後藤忠徳(京都大学)  
田中照喜・鄭 紅(エス・イー・エイ)・永橋賢司(三井造船)
- 14:30 C22-05 係留ブイ方式のGPS/A観測システムの開発(1)  
°藤本博己・木戸元之(東北大学・院理)
- 14:45 C22-06 海底地殻変動観測のこれまでの成果と今後の展望について  
°木戸元之・長田幸仁・藤本博己(東北大学予知セ)

10月28日(木) 15:15～17:00 C会場

**地震発生の物理**  
(講演時間 12分・質疑応答 3分)  
座長 宮武 隆・鈴木岳人

- 15:15 C22-07 断層の剪断破壊強度：断層の走向と変位場(IV)  
°山本清彦(なし；2004年 東北大学退職)
- 15:30 C22-08 非定常な間隙流体圧が断層のスティックスリップ挙動に及ぼす影響 - 現象論モデルの統合による -  
°三井雄太・平原和朗(京大理)・Massimo Cocco(INGV)
- 15:45 C22-09 震源域の構造不均質により生じる応力不均質と震源過程  
°宮武 隆・加藤尚之(東大地震研)・殷 峻(ASTOM)・加藤愛太郎(東大地震研)
- 16:00 C22-10 A Possible Rupture Scenario along the Double-layered Dipping Faults during the 2008 Wenchuan Earthquake  
°福山英一・ハオ憲生(防災科研)
- 16:15 C22-11 媒質境界と相互作用する地震の動的破壊の理論的研究 - XBIEMによる新展開 -  
°亀 伸樹(東大地震研)
- 16:30 C22-12 動的地震破壊に伴う面外損傷発達に関するエネルギー収支  
°鈴木岳人(東大理)
- 16:45 C22-13 修正されたRSF則による余震発生レートのモデリング  
°藤田哲史・亀 伸樹・中谷正生(東大・地震研)

10月28日(木) 13:30～17:00 D会場

地盤構造・地盤震動, 地震教育・地震学史

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 元木健太郎・吉本和生・津野靖士・泊 次郎・根本泰雄

地盤構造・地盤震動

- 13:30 D22-01 地震動のH/Vスペクトル比の新解釈とその適用事例  
°川瀬 博(京大防災研)・F. J. Sanchez-Sesma(メキシコ自治大)・松島信一(京大防災研)
- 13:45 D22-02 3次元地盤構造がH/Vスペクトル比に与える影響  
°廣川貴則(京大工)・F. J. Sanchez-Sesma(メキシコ自治大)・松島信一・川瀬 博(京大防災研)
- 14:00 D22-03 基盤傾斜が常時微動特性に与える影響 - 単点微動測定、微動アレイ測定による基盤形状の推定 -  
°元木健太郎・渡辺哲史・加藤研一(小堀研究所)・武居幸次郎(鹿島建設)  
山中浩明(東工大総理工)・飯場正紀(建築研究所)
- 14:15 D22-04 余震記録による2007年新潟県中越沖地震震源域の基盤速度構造のチューニング  
°新田祐平(京大工)・松島信一・川瀬 博(京大防災研)
- 14:30 D22-05 非定常波線分解法による基盤構造の推定 - 府中～横浜市大 -  
°高岸万紀子・木下繁夫(横浜市大)
- 14:45 D22-06 地震波干渉法による東京湾北岸部の地震基盤構造の推定  
°吉本和生(横浜市大)・平田 直・笠原敬司・小原一成・佐藤比呂志・酒井慎一  
鶴岡 弘・中川茂樹(東大地震研)・木村尚紀・棚田俊收(防災科研)  
明田川保(温地研)・中原 恒(東北大)・木下繁夫(横浜市大)
- 15:00 休憩
- 15:15 D22-07 MeSO-net データを利用した地震動コーダH/Vの卓越周期と首都圏の地下構造の関係  
°津野靖士・山中浩明(東工大・総理工)・酒井慎一・平田 直・笠原敬司(東大・地震研)  
木村尚紀(防災科研)・明田川保(神奈川県・温地研)
- 15:30 D22-08 関東平野周縁の地震基盤における中小地震による周期2～4秒の地震動振幅分布と理論放射特性の関係  
°早川 崇(清水建設)

地震教育・地震学史

- 15:45 D22-09 終戦直後の地震予知ブームとGHQ  
°泊 次郎(東大地震研)
- 16:00 D22-10 街角にみる関東大震災-東京都23区に残る慰霊碑・記念碑ほか  
°武村雅之(小堀鐸二研究所)
- 16:15 D22-11 2009年トンガ・ニウアトプタブ津波インタビュービデオアーカイブ - 災害体験の伝承手段として -  
°井上 公(防災科研)・安藤正治(トンガ放送)
- 16:30 D22-12 教員サマースクール2010の実施と免許状更新講習の開設  
°数越達也(神戸高)・伊東明彦(宇都宮大教育)・根本泰雄(桜美林大自然)  
南島正重(小石川高)・荒井賢一(栄東高)・美澤綾子(静岡高)
- 16:45 D22-13 教員免許更新講習で受講者から求められている地震教材  
°根本泰雄(桜美林大)・宮嶋 敏(深谷第一高)

10月29日(金) 8:45~12:00 A会場

新・地震波形解剖学2 - Hi-net10年 -

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 汐見勝彦・酒井慎一・加藤愛太郎・北佐枝子

- 8:45 A31-01 人間以上に高精度の地震波自動読み取りシステムの開発(その1)  
°堀内茂木・堀内優子((株)ホームサイズモメータ)・飯尾能久(京都大学防災研究所)  
澤田義博・関根秀太郎(地震予知振興会)・日野亮太(東北大学)  
ト部 卓・酒井慎一(東京大学地震研究所)・桑原保人・今西和俊(産業技術総合研究所)  
中村洋光(防災科学技術研究所)
- 9:00 A31-02 防災科研 Hi-net の10年:これまでとこれから  
°汐見勝彦(防災科学技術研究所)
- 9:15 A31-03\* Hi-net 観測データによる気象庁地震カタログの改善  
°長谷川洋平・舟崎 淳・足達晋平・碓井勇二(気象庁地震火山部)
- 9:30 A31-04 Hi-net のデータを用いた活断層周辺の浅発地震の震源再決定  
°小鹿浩太・古澤 豊・石黒顕吾・及川雅人・長谷見晶子(山形大理)
- 9:45 A31-05 2010年7月23日に千葉県北東部のプレート境界で発生した地震は正断層型の余震が多かった  
°酒井慎一・加藤愛太郎・平田 直・中川茂樹・笠原敬司・佐藤比呂志・蔵下英司・楠城一嘉  
ヤニスパナヨトプロス・小原一成(東大地震研)・明田川保(温地研)・木村尚紀(防災科研)
- 10:00 A31-06 首都圏地震観測網(MeSO-net)でとらえた変換波より推定される房総半島下のプレート構造  
°木村尚紀・武田哲也(防災科研)・小原一成・酒井慎一・笠原敬司・平田 直(東大地震研)
- 10:15 休憩
- 10:30 A31-07 新潟地域におけるリフト構造とそのセグメンテーション  
°Enescu Bogdan・武田哲也・浅野陽一(防災科研)  
小原一成(東京大学地震研, 防災科研)・関口渉次(防災科研)
- 10:45 A31-08 高密度観測網による非火山性群発地震発生域の特徴  
°加藤愛太郎・飯高 隆・酒井慎一・中川茂樹・岩崎貴哉・平田 直(東大地震研)
- 11:00 A31-09 山崎断層帯の深部構造と地震発生特性  
°西上欽也・澁谷拓郎・片尾 浩(京大防災研)・山口 覚(大阪市大理)・儘田 豊(JNES)
- 11:15 A31-10 紀伊半島でのリニアアレイ地震観測とレシーバ関数イメージング(2)  
°澁谷拓郎・中尾節郎・福居大志・西村和浩・澤田麻沙代(京大防災研)・平原和朗(京大理)
- 11:30 A31-11 北海道日高山脈下の詳細な地震波速度構造:前弧スリバーの衝突過程  
°北佐枝子・長谷川昭・岡田知己・中島淳一・松沢 暢(東北大学)・勝俣 啓(北海道大学)
- 11:45 A31-12 地震波トモグラフィで明らかになった日本列島下のスラブ構造とマントル上昇流  
°長谷川昭・中島淳一(東北大理)

10月29日(金) 8:45~12:00 B会場

地震発生の物理

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 八木勇治・瀬瀬一起・寺川寿子・今西和俊

\*は招待講演

- 8 : 45 B31-01 InSAR データの誤差相関距離の ABIC に基づく見積もり：地震滑り分布インバージョンにおけるモデル誤差の重要性  
 ° 深畑幸俊 (京大防災研)・Luis Rivera (Strasbourg Univ.)
- 9 : 00 B31-02 共分散成分を考慮した波形インバージョン法を用いた 2008 年四川汶川地震の震源過程の再検討  
 ° 八木勇治・西村直樹 (筑波大生命環境)
- 9 : 15 B31-03 断層形状の複雑性と共分散成分を考慮した震源インバージョン法 - 2010 年ハイチ地震への適用 -  
 ° 笠原天人・八木勇治 (筑波大生命環境)
- 9 : 30 B31-04 2010 年中国・玉樹地震とチベット高原東部の地殻変動  
 ° 横田裕輔・川添安之・尹 淳恵・大木聖子・瀬戸一起 (東大地震研)
- 9 : 45 B31-05 東部チベット高原で発生する S 波速度類似または超過な震源破壊  
 ° 瀬戸一起・横田裕輔・引間和人 (東大地震研)
- 10 : 00 B31-06 Supershear rupture causes severe damage in the April 13, 2010 Qinghai, China earthquake  
 ° Dun Wang, Jim Mori (DPRI, Kyoto University)
- 10 : 15 休憩
- 10 : 30 B31-07 深発地震における破壊伝播速度異常  
 ° 鈴木 満・八木勇治 (筑波大生命環境)
- 10 : 45 B31-08 地震の発生に果たすテクトニック応力場と間隙水圧の役割  
 ° 寺川寿子 (名古屋大学)・Stephen Miller (ボン大学)・松浦充宏 (統数研)
- 11 : 00 B31-09 宮城県沖における応力場とプレート間固着強度の関係  
 ° 鈴木健介・日野亮太・伊藤喜宏 (東北大・理)・金沢敏彦・山田知朗・篠原雅尚 (東大・地震研)  
 植平賢司 (九大・理)・山本揚二郎・金田義行 (海洋機構)
- 11 : 15 B31-10 近地強震記録を用いた海溝型繰り返し地震の震源過程の推定と比較 - 茨城県沖で 1982 年と 2008 年に発生した M7 の地震を対象として -  
 ° 瀧口正治・浅野公之・岩田知孝 (京大防災研)
- 11 : 30 B31-11 Love (G) Waves and Toroidal Mode Oscillations Observed on the Isabella Strainmeter for the 1960 Chilean Earthquake  
 ° Hiroo Kanamori (Seismological Laboratory, California Institute of Technology),  
 Luis Rivera (Institut de Physique du Globe de Strasbourg)
- 11 : 45 B31-12 S 波の振動方向を用いた深部低周波微動のメカニズム解推定  
 ° 今西和俊・武田直人 (産業技術総合研究所)

10 月 29 日 (金) 8 : 45 ~ 12 : 00 C 会場

津波，地震に伴う諸現象

(講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 都司嘉宣・藤井雄士郎・前田拓人・福地龍郎

津波

- 8 : 45 C31-01 1960 年、および 2010 年チリ地震津波の日本海岸での高さ分布の相似性  
 ° 都司嘉宣・今井健太郎 (東大地震研)
- 9 : 00 C31-02 2010 年チリ中部地震津波の規模と伝播の様相  
 ° 羽鳥徳太郎
- 9 : 15 C31-03 津波・測地データのインバージョンによる 1960 年チリ地震の規模とすべり量分布  
 ° 藤井雄士郎 (建築研国地セ)・佐竹健治 (東大地震研)
- 9 : 30 C31-04 2010 年 2 月チリ地震の津波波形インバージョン  
 藤井雄士郎 (建築研国地セ)・佐竹健治 (東大地震研)

- 9:45 C31-05 津波波形インバージョンによって推定された2003年十勝沖地震の海底変動  
 °上野俊洋・佐竹健治(東大地震研)・行谷佑一(産総研活断層セ)・金沢敏彦・酒井慎一(東大地震研)
- 10:00 C31-06 1605年慶長地震による大津波生成メカニズム  
 °古村孝志・前田拓人・今井健太郎(東大情報学環)
- 10:15 休憩
- 10:30 C31-07 地震に伴う津波高と海中音波:動的連成シミュレーションによる検討  
 °前田拓人・古村孝志(東大情報学環)
- 10:45 C31-08 津波による砂移動の数値計算 - 2004年スマトラ津波によるBanda Acehでの堆積物移動の再現-  
 °谷岡勇市郎・Aditya R. Gusman(北大地震火山センター)
- 11:00 C31-09 久慈湾を例にした津波による静振の発達  
 °阿部邦昭(日歯大新潟短大)
- 11:15 C31-10 2009年8月11日駿河湾地震によって活動した海底地滑りによる津波のシミュレーション  
 °馬場俊孝・柏瀬憲彦・松本浩幸・百留忠洋・金田義行(海洋機構)

#### 地震に伴う諸現象

- 11:30 C31-11 地殻活動に伴い励起される地中電磁波パルスの検出に向けて  
 °筒井 稔・神谷宗利・中谷太環(京都産大)・長尾年恭(東海大学)
- 11:45 C31-12 野島断層帯のシュートタキライトから復元される摩擦熱エネルギー  
 °福地龍郎(山口大院理工学)

### 10月29日(金) 8:45~12:00 D会場

#### 地震予知

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 佃 為成・太田健治・鶴我佳代子・梅田康弘

- 8:45 D31-01 卓越周期1HzのLg波か?内陸・沿岸直下型地震に先行する「規則微動」その存在の論証および予測手法の実例  
 °今津美智子(無所属・地震くるみる)
- 9:00 D31-02 直下型巨大地震による原発クライシスとその回避案  
 °高橋耕三(元通信総合研)・Matveev Igor(IPE RAS)・矢崎 忍(防災科研)・藤縄幸雄(REIC)
- 9:15 D31-03 最大瞬間風速からの地震予知(5) - 衛星画像の解析 -  
 °猿渡隆夫
- 9:30 D31-04 大地震前の地震活動活発化域と静穏化域の空間的特徴  
 °吉川澄夫(気象研究所)
- 9:45 D31-05 静穏化現象を検出した場合の地震発生の割合について  
 °太田健治(仙台管区気象台)・林元直樹・宮岡一樹(気象庁)  
 明田川保(神奈川県温泉研)・吉川澄夫(気象研)
- 10:00 D31-06 近畿地方における最近10年間の地下水温変化と地殻活動異常  
 °佃 為成(日本女子大)
- 10:15 休憩
- 10:30 D31-07 1946年南海地震前の四国太平洋沿岸の上下変動(2)  
 °梅田康弘・板場智史(産総研活断層セ)
- 10:45 D31-08 定常的55-70MHz帯電波の地震エコー観測のための調査とその利用  
 °森谷武男・茂木 透・山下晴之・佐々木智彦(北大地震火山セ)
- 11:00 D31-09 弾性波アクロスを用いた地震発生場の時間変化領域のイメージング

- °鶴我佳代子（東京海洋大）・笠原順三（静岡大）・羽佐田葉子（大和探査）・藤井直之（静岡大）
- 11：15 D31-10 地震予知研究にかかわるリスクコミュニケーション  
°大木聖子・瀨瀬一起・泊 次郎・桑原央治（東大地震研）
- 11：30 D31-11 深発地震と浅発地震の連鎖傾向  
°平道富作士（待夢地震予知研究所）
- 11：45 D31-12 F-net の連続波形画像に観測される長周期振動（その1）  
°末 芳樹

10月29日（金）14：30～17：00 A会場

新・地震波形解剖学2 — Hi-net10年—

（講演時間12分・質疑応答3分）

座長 大見士朗・高橋 努・小菅正裕

- 14：30 A32-01\* Hi-net 高感度加速度計で観測された常時励起表面波  
°西田 究（東大地震研）・深尾良夫（海洋研究開発機構）・川勝 均（東大地震研）・汐見勝彦（防災科研）
- 14：45 A32-02 高密度地震観測網で捉えたT波の陸上伝播の特徴とそれから推定される音波から地震波への変換機構  
°小菅正裕・橋本一勲（弘前大・理工）
- 15：00 A32-03 北海道における周期2-20秒の微動の季節性について  
°前田宜浩・谷本俊郎（UCSB）
- 15：15 A32-04 雑微動の相互相関関数による西南日本の地殻下反射面の検出  
°大見士朗（京大防災研）・平原和朗（京大理）
- 15：30 A32-05 Hi-net 伊東観測点における雑微動自己相関関数と傾斜変化 —伊豆半島東方沖の群発地震活動に注目して—  
°上野友岳・齊藤竜彦・汐見勝彦・Bogdan Enescu・廣瀬 仁（防災科研）
- 15：45 休憩
- 16：00 A32-06 レシーバー関数解析のための深井戸観測記録の料理法  
°竹中博士（九州大学）・村越 匠（防衛大学校）
- 16：15 A32-07 高周波数P波を用いた短波長不均質構造の地域性の推定  
°武村俊介（東大地震研）・古村孝志（東大地震研／東大情報学環）
- 16：30 A32-08 東北日本の不均質構造によるコーダ波エネルギーの空間分布の推定  
°竹本帝人（東大地震研）・古村孝志・前田拓人・野口科子（東大地震研／東大情報学環）
- 16：45 A32-09 西南日本における速度ゆらぎの空間分布  
°高橋 努・尾鼻浩一郎・山本揚二郎・仲西理子・小平秀一・金田義行（海洋研究開発機構）

10月29日（金）14：30～17：00 B会場

地震発生の物理

（講演時間12分・質疑応答3分）

座長 芝崎文一郎・中田令子・橋本千尋・光井能麻

- 14：30 B32-01 沈み込み帯浅部におけるすべり過程のモデル化 —超低周波地震の発生機構について—  
°芝崎文一郎（建築研）・伊藤喜宏（東北大）

\*は招待講演

- 14 : 45 B32-02 高分子ゲルのすべり摩擦におけるスケーリング則  
 °山口哲生・森下真年・土井正男 (東大工)・堀 高峰・阪口 秀 (JAMSTEC)・J. P. Ampuero (Caltech)
- 15 : 00 B32-03 深部低周波地震・微動の破壊伝播を規定する震源構造と摩擦特性：力学モデルにもとづく数値実験  
 °中田令子 (海洋研究開発機構)・安藤亮輔 (産総研活断層セ)  
 堀 高峰 (海洋研究開発機構)・井出 哲 (東大・理)
- 15 : 15 B32-04 Episodic Tremor and Slip on a Frictional Interface with Critical Zero Weakening in Elastic Solid  
 ° Yehuda Ben-Zion (University of Southern California)
- 15 : 30 B32-05 ゆっくり地震の諸特徴の動的枠組みでのモデル化  
 °山下輝夫 (東大地震研)
- 15 : 45 休憩
- 16 : 00 B32-06 東海地域および豊後水道の長期的スロースリップイベントの再現  
 °弘瀬冬樹・前田憲二 (気象研)
- 16 : 15 B32-07 プレート沈み込み帯の地震発生サイクル：すべり履歴と応力蓄積レート  
 °橋本千尋 (名大環境)・福山英一 (防災科研)・松浦充宏 (統数研)
- 16 : 30 B32-08 2次元平面断層上における地震発生サイクルモデルのデータ同化手法開発  
 °光井能麻 (名大環境)・堀 高峰 (JAMSTEC・IFREE)・宮崎真一 (京大理学)・加藤尚之 (東大地震研)
- 16 : 45 B32-09 大きな破壊への準備過程：数値実験にもとづく考察  
 °堀 高峰・阪口 秀 (JAMSTEC)

10月29日 (金) 14:30 ~ 17:00 C会場

変動地形学の挑戦：活断層から地震動へ

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 遠田晋次・後藤秀昭・隈元 崇・奥村晃史

- 14 : 30 C32-01 変動地形学的研究は地震をどこまで解き明かせるのか？  
 °中田 高 (広島大学名誉教授)
- 14 : 45 C32-02 活断層の活動間隔，地震時変位量と動的震源モデルへの適用  
 °近藤久雄 (産総研活断層セ)・加瀬祐子 (文部科学省)・オメール エムレ (MTA)
- 15 : 00 C32-03 詳細 DEM 画像を用いた南海トラフ西部の海底活断層  
 °後藤秀昭・中田 高 (広島大)・渡辺満久 (東洋大)・鈴木康弘 (名古屋大)  
 徳山英一 (東京大)・隈元 崇 (岡山大)・佐竹健治 (東京大)  
 加藤幸弘・西澤あずさ・泉 紀明・伊藤弘志 (海上保安庁)・植木俊明・梶 琢 (海洋先端技術研)
- 15 : 15 C32-04 活構造・震源断層と重力異常  
 °加瀬祐子・長谷川裕之・北川貞之 (文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課)
- 15 : 30 C32-05\* 内陸活断層での地震発生の物理的モデル化と検証：2008年岩手・宮城内陸地震の場合  
 °安藤亮輔 (産総研活断層セ)・奥山 哲 (北大観測セ)
- 15 : 45 休憩
- 16 : 00 C32-06\* 微動 H/V 比による警固断層位置の再推定の作業結果から見た課題  
 °川瀬 博 (京大防災研)
- 16 : 15 C32-07 断層破碎帯浅部の微細構造 —物理検層，物理探査による比抵抗分布—  
 °小村健太郎・松田達生 (防災科研)
- 16 : 30 C32-08 日本列島内陸部の変形に関する諸問題 —測地観測の視点から—

\*は招待講演

°鷺谷 威 (名大・環境)

16:45 C32-09 地表地震断層：地震から活断層へ

°奥村晃史 (広島大学文学研究科)

10月29日(金) 14:30～17:00 D会場

地震の理論・解析法

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 豊国源知・岡元太郎

14:30 D32-01 2次元等方散乱媒質における弾性波の輻射伝達

°中原 恒 (東北大学)・吉本和生 (横浜市大)

14:45 D32-02 放射境界条件を持つ系の励起問題

°小林直樹 (宇宙航空研究開発機構/宇宙研)

15:00 D32-03 線形作用素のスペクトル分解を用いた波動場の相互相関関数とグリーン関数の関係についての考察

°藤原広行 (防災科研)

15:15 D32-04 自己重力の効果を考慮した球座標系2.5次元地震波伝播モデリング(1):カウリング近似

°豊国源知 (極地研)・竹中博士 (九大・理)

15:30 D32-05 平均場に基づくランダム不均質媒質中でのランダム一様な励起源に対する相互相関関数の導出

°澤崎 郁・藤原広行 (防災科学技術研究所)

15:45 休憩

16:00 D32-06 IIRフィルタ特性変化によるB-Δ法推定結果について

°佐藤新二・山本俊六 (鉄道総研)

16:15 D32-07 最短経路法を用いた走時計算の高速化

°関口渉次 (防災科研)

16:30 D32-08 GPUを用いた地震波伝播シミュレーション(3):地形・流体層と非弾性減衰効果の導入

°岡元太郎 (東工大)・竹中博士 (九州大)・中村武史 (海洋研究開発機構)・青木尊之 (東工大)

10月27日(水) 17:45～19:15 ポスター1日目

フィリピン海プレートと日本列島—地震・火山から地形形成論まで—

- P1-01 反射法地震探査から得られた小笠原トラフの地殻構造とその進化過程  
°山下幹也・小平秀一・高橋成実・三浦誠一・野 徹雄・海宝由佳・金田義行 (海洋研究開発機構)
- P1-02 北部伊豆小笠原弧における内部減衰構造  
°高橋 努 (海洋研究開発機構)
- P1-03 GEONET からみた伊豆諸島周辺の地殻歪  
°青木治三 (東濃地震科研)
- P1-04 深部低周波地震とスラブ地震の深度差の評価  
°青木治三 (東濃地震科研)
- P1-05 大阪湾の低周波地震は火山性か? ～連続波形データを使った活動の解明～  
°麻生尚文・井出 哲 (東大・理・地惑)
- P1-06 紀伊半島沖で発生した超低周波地震の3次元地震波動伝播シミュレーション  
°中村武史 (海洋機構)・岡元太郎 (東工大)・杉岡裕子・石原 靖・伊藤亜妃  
尾鼻浩一郎・小平秀一・末次大輔・木下正高・深尾良夫・金田義行 (海洋機構)
- P1-07 広帯域海底地震計記録で捉えた紀伊半島沖超低周波地震の2.5次元差分法によるモーメントテンソル解析  
°岡元太郎 (東工大)・中村武史・杉岡裕子・石原 靖・伊藤亜妃・尾鼻浩一郎  
小平秀一・末次大輔・木下正高・深尾良夫 (海洋研究開発機構)
- P1-08 房総沖スロースリップイベント周辺域でのMCSイメージング  
°三浦誠一・山下幹也・藤江 剛・野口直人・高橋成実・野 徹雄・小平秀一 (海洋研究開発機構)  
小林励司 (鹿児島大学)
- P1-09 有限要素法を用いた南海トラフ付加体内部の応力場の推定  
°伊藤喜宏 (東北大予知セ)・芝崎文一郎 (建築研)・柄谷和輝 (CTC)
- P1-10 フィリピン海プレートを伝播するラブ波のモード構成  
°加藤 護 (京大院人環)
- P1-11 1707年宝永地震の新地震像  
°松浦律子 (地震予知振興会)・中村 操 (防災情報サ)・唐鎌郁夫 (地震予知振興会)

強震動・地震災害

- P1-12 長大な活断層に適用可能な断層パラメータ設定手法についての考察  
°渡辺基史 (清水建設)・藤原広行 (防災科研)・石井 透・佐藤俊明・奥村俊彦 (清水建設)
- P1-13 近年発生した被害地震の特性化震源モデルに基づく面的強震動評価  
°宮腰 研・西村利光 (地盤研究財団)・倉橋 奨・入倉孝次郎 (愛知工大)・釜江克宏 (京大原子炉)
- P1-14 経験的グリーン関数法を用いた2009年8月11日駿河湾の地震(MJMA6.5)の震源モデルの構築と強震動シミュレーション  
°染井一寛・宮腰 研 (地盤研究財団)・倉橋 奨 (愛知工業大学)  
釜江克宏 (京大原子炉)・入倉孝次郎 (愛知工業大学)
- P1-15 ボクセル有限要素法による2007年新潟県中越沖地震の強震動シミュレーション  
°刀田健史・瀬戸一起・三宅弘恵 (東大地震研)
- P1-16 インバージョン手法による2003年十勝沖地震の強震動生成域の推定  
°芝 良昭 (電力中央研究所)・徳光亮一・西村 功 (東京電力)
- P1-17 震源インバージョンのためのレスパー関数による速度構造の推定 - 2008年岩手・宮城内陸地震震源域周辺の観測点 -  
°吉田邦一・宮腰 研 ((財)地域地盤環境研究所)  
入倉孝次郎 (愛知工大)・羽田浩二 ((株)ニュージエック)
- P1-18 地震動予測用速度構造モデル検証のためのF-net広帯域連続記録を用いた地震波干渉法による西南日本の地殻速度構造の推定(2)

- °浅野公之・岩田知孝（京大防災研）・山下佳穂里（京都府）
- P1-19 南海地震の長周期地震動予測のための地下構造モデル  
°香川敬生（鳥取大）・ペトヒン・アナトリ（地盤研究財団）・瀨瀬一起・三宅弘恵（東大地震研）  
室谷智子（文科省）・鶴来雅人（地盤研究財団）
- P1-20 地殻最上部層モデル化のための非ヤコビ行列のイタレーション法の適用性検討  
°ペトヒン アナトリ（地盤研究財団）・香川敬生（鳥取大）・瀨瀬一起・三宅弘恵（東大地震研）  
室谷智子（文科省）・宮腰 研（地盤研究財団）・増田 徹（東大地震研）
- P1-21 つくば市における地震観測記録を用いたスペクトル増幅率の推定  
°工藤暢章（ダイヤコンサル）・先名重樹・藤原広行（防災科研）
- P1-22 2008年岩手・宮城内陸地震に伴う地震波速度変化の空間分布  
°高木涼太・岡田知己・中原 恒・海野徳仁・長谷川昭（東北大・理）
- P1-23 長周期地震動（1-15秒）の経験的評価（4）  
°湯沢 豊（東電設計）・工藤一嘉（日本大学・東設）
- P1-24 Ranking of several ground motion models for seismic hazard analysis in Japan  
° Hadi Ghasemi, Kazuki Koketsu, Hongjun Si, Hiroe Miyake (ERI, Univ. Tokyo)
- P1-25 工学的基盤上での計測震度の距離減衰式の検討  
°他谷周一・中嶋 繁（JR東海）・司 宏俊・高浜 勉・橋本光史（構造計画研究所）
- P1-26 P波PGAの飽和域を用いた巨大地震に対応した緊急地震速報の高度化  
°倉橋 奨・入倉孝次郎（愛知工大）
- P1-27 ボーリング地震計データのオンサイト警報への適用 – 初動部分検出方法の検討 –  
°栗田祐介（東大新領域）・鷹野 澄（東大情報学環／地震研）
- P1-28 関東地方の500m以深の深井戸における強震観測データを緊急地震速報へ利用する場合の効果  
°岩切一宏・干場充之・大竹和生（気象研）・下山利浩（気象庁）
- P1-29 100 Hz 単独観測データを用いた地震警報システムのためのノイズ除去手法  
°堀内茂木・中村洋光・功刀 卓（防災科研）・堀内優子（ホームサイズモメータ）
- P1-30 IT強震計を利用した住宅での地震観測とその課題  
°伊藤貴盛・鷹野 澄（東大）

#### 岩石実験・地殻応力

- P1-31 破壊途上の岩石試料を用いた弾性波速度トモグラフィーによる断層検出の試み  
°奥野喬也・川方裕則・土井一生（立命館大学）
- P1-32 含水高速摩擦試験による断層ガウジ試料の微量元素・同位体分析  
°本多 剛（大阪大学）・谷川 亘・石川剛志（JAMSTEC）・廣野哲朗（大阪大学）
- P1-33 岩石の接触状態をモニターするための比抵抗測定システムの構築  
°山下 太・福山英一（防災科研）・溝口一生（電中研）・柳谷 俊

#### 地震計測・処理システム

- P1-34 震源計算のための三次元速度構造（2）  
°勝間田明男（気象研究所）
- P1-35 海底地震観測の作業効率化に向けた新型データロガーの開発  
°鈴木秀市・伊藤喜宏・日野亮太（東北大学理）・齋藤和男・長谷川聡・日里勝利・酒主美樹雄（計測技研）
- P1-36 Feasibility test of GRiD MT with W-phase monitoring in Japan  
° H. Tsuruoka 1, L. Rivera 2 and H. Kawakatsu 1 (1 ERI, Univ. Tokyo, 2 Univ. Strasbourg)
- P1-37 Hewlett Packard 社の海底圧力計のノイズレベルを評価する  
°稲津大祐・日野亮太（東北大学知セ）
- P1-38 ボアホール型折りたたみ振子傾斜計の開発2  
°高森昭光（東大地震研）・Alessandro Bertolini（マックスプランク研究所）  
Riccardo DeSalvo（カリフォルニア工科大学）・金沢敏彦・篠原雅尚・新谷昌人（東大地震研）

- P1-39 首都圏地震観測網 (MeSO-net) の展開Ⅱ  
 °笠原敬司・酒井慎一・森田裕一・鶴岡 弘・中川茂樹・楠城一嘉・蔵下英司・小原一成・平田 直 (東大地震研)  
 木村尚紀 (防災科研)・明田川保 (神奈川県温泉地学研究所)

### 地球及び惑星の深部構造と物性

- P1-40 遠地地震トモグラフィーによる日本列島下のマントル構造  
 °篠田高広・趙 大鵬・長谷川昭 (東北大学知セ)
- P1-41 広帯域地震波形データ解析による北東太平洋下の内核の減衰・速度構造  
 °入谷良平・竹内 希・川勝 均 (東大地震研)
- P1-42 NECESSArray で観測されたトンガ・フィジー地域の地震による P 波走時の特徴  
 °田中 聡 (JAMSTEC, IFREE)・川勝 均・宮川幸治・出原光暉・利根川貴志・入谷良平 (東大地震研)  
 NECESSArray プロジェクトチーム
- P1-43 スタグナントスラブの地震波速度異方性は存在するか?  
 °東野陽子・深尾良夫 (IFREE)・Yuan Gao (SEA)・坪井誠司 (IFREE)
- P1-44 マルチモード表面波の自動位相速度計測:大陸地域への応用  
 °吉澤和範 (北大・理・地惑ダイナミクス)
- P1-45 アンチゴライトを含む蛇紋岩の弾性波速度  
 °白杉勇人・渡辺 了 (富山大院・理工)・道林克禎 (静岡大・理)

### 地震活動

- P1-46 情報エントロピーを用いた震源空間分布の相関次元解析  
 °都筑基博・小山順二 (北大理)
- P1-47 階層的時空間 ETAS モデルに基づいた地震活動の特徴  
 °菅谷勝則・尾形良彦 (統数研)
- P1-48 震源情報を基に抽出した日本列島周辺の地震クラスター  
 °五十嵐俊博 (東大地震研)
- P1-49 Characteristics of Aftershock Sequences from Recent Moderate-sized Earthquakes of Onshore Japan  
 ° Jim Mori (Diaster Prevention Research Institute, Kyoto University)
- P1-50 日本海溝北部・千島海溝南部沿いの (巨) 大地震の時空間分布の新しい見方  
 °原田智也・佐竹健治 (東大/地震研)・石橋克彦
- P1-51 日光・足尾地域の地震活動と地殻構造  
 °萩原弘子 (東大地震研)
- P1-52 長期海底地震観測によるひずみ集中帯周辺部、および新潟県上越沖における地震活動  
 °町田祐弥・真保 敬・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・金沢敏彦 (東大地震研)
- P1-53 海底地震計を用いたひずみ集中帯における応力場  
 °真保 敬・町田祐弥・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・金沢敏彦 (東大地震研)
- P1-54 地殻構造解析を目的とした南部伊豆小笠原弧での海底地震観測  
 °尾鼻浩一郎・小平秀一・高橋 努・高橋成実・田村芳彦・深尾良夫 (海洋研究開発機構)
- P1-55 Relocation of aftershocks of the Suruga Bay earthquake using waveform cross-correlations  
 ° Sayumi Kimura・Jim Mori (京大防災研)
- P1-56 稠密地震観測による近畿地方北部におけるメカニズム解と応力場  
 °青木裕晃・片尾 浩・飯尾能久・三浦 勉・中尾愛子・米田 格・澤田麻沙代・中尾節郎 (京大防災研)
- P1-57 四半世紀にわたる近畿地方北部の応力空間分布と時間変化  
 °片尾 浩 (京大防災研)
- P1-58 広島市と東広島市境界付近の地殻最下部で発生している低周波でない「普通」の地震について  
 °高橋浩晃・山田卓司 (北大理地震火山センター)
- P1-59 潮岬南方沖南海トラフ軸周辺のフィリピン海プレート内部の微小地震活動の海底地震観測  
 °平田賢治・対馬弘晃 (気象研)・山崎 明 (地磁気観測所)・馬場久紀・去川寛士・平井孝明 (東海大)

小林昭夫・勝間田明男・吉田康宏・青木重樹・弘瀬冬樹・岩切一宏・前田憲二・吉川澄夫（気象研）  
吉岡英和・井澤 絢・茂木伸治（勝島製作所）

- P1-60 南海トラフ周辺での広帯域海底地震計を用いた低周波地震観測  
°中東和夫・町田祐弥・一瀬建日・山田知朗・望月公廣・塩原 肇・篠原雅尚・金沢敏彦（東大地震研）  
植平賢司（九大島原）
- P1-61 霧島火山群新燃岳における 2010 年噴火活動に伴って観測された火山性地震・微動の特徴  
°及川 純・渡邊篤志・辻 浩・小山崇夫・森田裕一・大湊隆雄  
武尾 実・中田節也・青木陽介・前田裕太（東大地震研）
- P1-62 硫黄島における誘発地震現象  
°渡辺泰行・鴨川 仁（東学大・教育・物理）・鶴川元雄・藤田英輔・上田英樹（防災科研）  
橋本 哲（大府大・物理）・長尾年恭（東海大・予知センター）・里嘉千茂（東学大・教育・地学）
- P1-63 Joint inversion using waveform and inSAR data for the 2009 Papua, Indonesia Earthquake  
°乗松君衣・Jim Mori・橋本 学（京大防災研）
- P1-64 海底地震計観測データに基づく 2004 年 12 月 26 日スマトラ-アンダマン地震の余震の震源メカニズムの検討  
°川野雅弘（高知大学）・志藤あずさ・富士原敏也（JAMSTEC）  
平田賢治（気象研究所）・荒木英一郎（JAMSTEC）
- P1-65 1-D Velocity Model for Syria from Local Earthquake Data and a New Seismicity Map in Syria  
°Rami Ibrahim (ERI, Univ.Tokyo), Hiroshi Takenaka (Kyushu Univ.)  
Mohamad Daoud (NEC, Syria), Tatsuhiko Hara (IISSE, BRI)

#### 地震一般・その他

- P1-66 火星環境における広帯域地震計測の検討  
°西川泰弘・新谷昌人・栗田 敬・堀 輝人（東京大学地震研究所）  
小林直樹・白石浩章（ISAS/JAXA）鹿熊英昭（中央大学）石原 靖（JAMSTEC）
- P1-67 SELENE2 における広帯域月震計測  
°村上英記（高知大）・小林直樹・白石浩章（ISAS）・竹内 希（ERI）  
田中 智・飯島祐一・小川和津・早川雅彦・白井 慶・藤村彰夫・川村太一・山田竜平（ISAS）  
岡元太郎（東工大）・久家慶子（京大）・鹿熊英昭（中央大）・石原 靖・荒木英一郎（JAMSTEC）  
趙 大鵬（東北大）・谷本俊郎（UCSB）・山田功夫（中部大）・蓬田 清・小山順二（北大）  
P. Lognonné・T. Nebut・S. Tillier・S. de Raucourt・J. Gagnepain-Beyneix (IPGP)  
A. Mocquet (Nantes)・D. Mimoun (Toulouse)・R. Garcia (SUPAERO)・D. Giardini・L. Boschi  
P. Zweifel・D. Mance (ETHZ)・U. Christensen・W. Goetz・R. Roll・M. Bierwirth (MPI)
- P1-68 次期月探査計画 SELENE-2 の着陸地検討状況  
°小林直樹（宇宙航空研究開発機構／宇宙研）・石原吉明（国立天文台／RISE）  
荒井朋子（千葉工大／惑星探査研究セ）・荒木博志（国立天文台／RISE）  
大竹真紀子（宇宙航空研究開発機構／宇宙研）・唐牛 讓（早稲田大）・佐伯和人（大阪大）  
杉原孝充（海洋研究開発機構／地球深部探査セ）・春山純一（宇宙航空研究開発機構／宇宙研）  
本田親寿（会津大／ARC-Space）
- P1-69 4次元地震波動場のボリューム可視化  
°岩井一央・古村孝志・前田拓人（東大総防情研セ、地震研）・武村俊介（東大地震研）
- P1-70 福井県で認められた 2005 年前後の地震活動の変化について  
°岡本拓夫（福井高専）・平野憲雄・竹内文朗・西上欽也・和田博夫（京大防災研）
- P1-71 2010 年 2 月 27 日沖縄本島近海地震（M7.2）のアンケートによる震度調査  
°中村 衛・赤嶺祐作・浜川浩大・比嘉雄人（琉球大理）・仲座栄三（琉球大工）

#### 地球化学・地下水

- P1-72 帯水層の透水係数と化学観測の同時連続観測の可能性について  
°角森史昭（東大理地殻化学）

- P1-73 高周波数領域における密閉型井戸の水圧の地殻歪への応答の周波数特性  
 °北川有一・板場智史・松本則夫・小泉尚嗣（産総研）

#### 地球熱学

- P1-74 東北地方における地殻熱流量分布と熱構造  
 °松本拓己（防災科学技術研究所）

### 10月28日（木） 17:00～18:30 ポスター2日目

#### 地殻構造

- P2-01 地下構造可視化システムの公開  
 °長 郁夫・中井未里・桑原保人（産総研）
- P2-02 A Quantitative Study of the Separation of intrinsic and scattering seismic attenuation in Southeastern South Korea  
 ° Tae Woong Chung (Sejong Univ., KOREA), Kazuo Yoshimoto (Yokohama-city Univ.)
- P2-03 南西諸島北部の海溝－島弧－背弧系を横断する反射法地震探査  
 °堀内大嗣・西澤あずさ・金田謙太郎（海上保安庁海洋情報部）  
 上村 彩（川崎地質株式会社）・宇納貞男・笠原順三・田中智之（地球科学総合研究所）
- P2-04 南西諸島北部の海溝－島弧－背弧系を横断する地震波速度構造  
 °上村 彩・西山英一郎（川崎地質株式会社）・堀内大嗣・西澤あずさ・金田謙太郎（海上保安庁海洋情報部）  
 笠原順三・田中智之（地球科学総合研究所）
- P2-05 アウターライズ付近における構造探査観測－北西太平洋、日本海溝・千島海溝沖－  
 °藤江 剛・野口直人・佐藤 壯・高橋 努・山下幹也・小平秀一（JAMSTEC）
- P2-06 九十九里－霞ヶ浦測線地殻・プレート構造探査速報  
 °佐藤比呂志・蔵下英司（東大地震研）・阿部 進・溝畑茂治（地科研）  
 岩崎貴哉・酒井慎一・中川茂樹・平田 直（東大地震研）
- P2-07 採石発破を利用した神縄・国府津－松田断層帯北縁部（箱根火山－丹沢山地）付近の震源精度と表層速度  
 °棚田俊收（防災科研）・馬場久紀（東海大）・行竹洋平・本多 亮・明田川保・吉田明夫（神奈川温地研）
- P2-08 石狩低地東縁断層帯における地震活動及び地下構造  
 °一柳昌義・高橋浩晃・高田真秀・山口照寛（北大）  
 前田宜浩（防災科研）・本多 亮（北大）・河野裕希（防災科研）  
 岡山宗夫・青山 裕・橋本武志（北大）・笠原 稔（インドネシア気象気候地球物理庁）
- P2-09 越後山脈－佐渡海峡東部の上部地殻構造：ひずみ集中帯構造探査会津－佐渡測線  
 °加藤直子・佐藤比呂志（東大地震研）・石山達也（東北大理）・斉藤秀雄・阿部 進（地科研）
- P2-10 2008年岩手・宮城内陸地震の震源域における詳細な地震波減衰構造  
 °四ヶ所健太・岡田知己・中島淳一・速水絵里圭・海野徳仁・長谷川昭（東北大予知セ）
- P2-11 南関東のS波異方性の空間変化  
 °本多 亮・行竹洋平（温地研）・浅野陽一（防災科研）
- P2-12 稠密臨時観測による濃尾地震断層系北部の地震波速度構造  
 °青柳恭平（電中研）・阿部信太郎（電中研，地震予知振興会）
- P2-13 反射法解析で推定された北米濃地域における地下構造  
 °古屋 裕・津村紀子・駒田希充（千葉大）・濃尾合同観測グループ
- P2-14 中竜鉦山地震計アレイ観測による濃尾地震断層周辺域の地殻内散乱体分布の推定  
 °松本 聡・松島 健（九大地震火山センター）・平野憲雄（京大防災研）・池端 慶・中元真美  
 山下裕亮・糸谷夏実・栢橋志郎（九大地震火山センター）・佐々木裕樹・千葉慶太（京大防災研）  
 千藏ひろみ・宮崎真大（九大地震火山センター）・野村和正・李 哲俊（京大理）  
 武田哲也・浅野陽一（防災科研）・小原一成（東大地震研）・飯尾能久（京大防災研）
- P2-15 東海地域における3次元地震波減衰構造  
 °高岡宏之・津村紀子・高橋福助・野崎謙治（千葉大学）・加藤愛太郎・飯高 隆（東大地震研）

生田領野 (静岡大学)・吉田康宏 (気象研)・勝俣 啓 (北海道大学)・岩崎貴哉・酒井慎一 (東大地震研)  
山岡耕春・渡辺俊樹 (名古屋大学)・國友孝洋 (静岡大学)・山崎文人 (名古屋大学)  
大久保慎人・鈴木貞臣 (東濃地震科研)・平田 直 (東大地震研)

- P2-16 布引山地東縁断層の地下構造調査 - 反射法結果 -  
°山口和雄・塚本 齊・高橋 誠・小泉尚嗣 (産総研)・伊東俊一郎 (サンコーコン)・今吉 隆 (阪神コン)
- P2-17 山崎断層帯で観測されたトラップ波の分散の特徴と断層深部構造の推定  
°儘田 豊 (原子力安全基盤機構)・干野 真 (応用地質)・西上欽也 (京大防災研)
- P2-18 野島断層における ACROSS を用いた S 波偏向異方性の時間変化  
°小林由実・渡辺俊樹・山岡耕春 (名古屋大学環境)・生田領野 (静岡大学理)・西上欽也 (京都大学防災研)
- P2-19 地震波干渉法を用いた地殻構造イメージングに関するシミュレーションスタディ  
°辻 琢允・渡辺俊樹 (名大・環境)
- P2-20 宮城県北部における地震波干渉法適用の試み (その 2)  
°伊藤 忍・山口和雄・加野直巳・横倉隆伸・楳原京子 (産総研)
- P2-21 地震波干渉法による日本海溝付近の地震波速度不連続面の検出  
°中条恒太・伊藤喜宏・日野亮太・鈴木秀市 (東北大理予知セ)・篠原雅尚 (東大地震研)
- P2-22 地震波干渉法による 2003 年十勝沖地震における地下構造変化検出の試み  
°正木喜啓・平原和朗 (京大・理)

### テクトニクス

- P2-23 歪集中の枠組み  
°重松紀生 (産総研活断層・地震セ)
- P2-24 沈み込むリソスフェアの年代急変によるスラブ座屈モード変化  
°江口孝雄 (防衛大)
- P2-25 日本列島周辺域のテクトニックな枠組み  
°高橋雅紀 (産総研地質情報)
- P2-26 台湾衝突帯の階層構造モデル  
°永井 悟 (国立台湾大学) (現・名古屋大学)・John Suppe・逸 民 (国立台湾大学)
- P2-27 2004 年に発生したスマトラ北西沖巨大津波の発生メカニズムに関する第 5 仮説に対する地質学的な証拠について  
°平田賢治 (気象研/海洋研究開発機構)・Haryadi Permana (インドネシア科学院)  
富士原敏也 (海洋研究開発機構)・Udrekh (インドネシア技術評価応用庁)  
Eddy Z.Gaffar (インドネシア科学院)・川野雅弘 (高知大/海洋研究開発機構)  
Yusuf S. Djajadihardja (インドネシア技術評価応用庁)・荒井晃作 (産総研)

### 地震活動評価に基づく地震発生予測システムの構築へ向けて

- P2-28 RI 地震活動モデル改良における簡便な検定法の活用  
°横井佐代子・楠城一嘉・鶴岡 弘・平田 直 (東大地震研)
- P2-29 ナチュラルタイム解析からみた地震活動の統計的性質~その 2  
°鴨川 仁・富澤祐樹 (東学大・教育・物理)・上田誠也 (日本学士院)・長尾年恭 (東海大・予知センター)
- P2-30 Use of Seismic Velocity Information for Predictive Earthquake Occurrence Rate  
° Fuyuki Hirose, Kenji Maeda (MRI)
- P2-31 Improvement of Likelihood Model Testing  
Tetsuto Himeno (TRIC, ROIS), ° Kazuyoshi Z. Nanjo (ERI, Univ. Tokyo)
- P2-32 全国の中規模固有地震活動 ( $M \geq 4.5$ ) 検出の試み  
°鎌谷紀子 (気象大学校)・勝間田明男 (気象研究所)
- P2-33 Converting Foreshock Probabilities to an Alarm Forecast Model  
° Christine Smyth, Jim Mori, Masumi Yamada (DPRI, Kyoto Univ.)
- P2-34 Lateral Variation in Geophysical Characteristics and Segmentation of Earthquake Rupture along the Nankai Subduction Zone  
°Sebastien Hok (NIED)

P2-35 P波速度構造に基づく地震活動モデルのテスト

°井元政二郎・山本菜穂子（防災科研）

### 地殻変動・GPS・重力

P2-36 ALOS / PALSAR データによる 2010 年メキシコ、バハ・カリフォルニアで発生した地震に伴う地殻変動の検出

°岡本淳一・橋本 学（京大防災研）

P2-37 ScanSAR データを利用した干渉解析による地震に伴う地殻変動の検出

°小澤 拓（防災科研）

P2-38 数値気象モデルを用いた SAR 干渉解析における大気起因位相遅延量誤差の軽減の試み

°小林知勝・石本正芳・矢来博司・飛田幹男（国土地理院）

P2-39 SAR 干渉解析による 1997 年 5 月 13 日鹿児島県北西部地震のすべり分布

°長尾 潤（気象庁地震火山部）・中尾 茂（鹿大理工）・後藤和彦（鹿大南西島弧観）

P2-40 「だいち」 SAR 干渉解析による豊後水道周辺の非定常地殻変動抽出の試み

°矢来博司・鈴木 啓・野口優子・飛田幹男・小林知勝（国土地理院）

P2-41 RTK-GPS データによる地震時永久変位自動検出手法の開発

°小林竜也・太田雄策・三浦 哲（東北大・理・予知セ）

P2-42 衛星軌道暦の違いによるキネマティック GPS 解析の精度評価

°渡部 豪・田所敬一・奥田 隆（名古屋大学）・生田領野（静岡大学）・久野正博（三重県水産研究所）

P2-43 2009-2010 年の豊後水道スロースリップ

°小沢慎三郎（国土地理院）

P2-44 GPS データを用いた西南日本のすべり欠損分布の推定～プレート形状、観測点配置の影響～

°松岡美子（神戸大・理）・吉岡祥一（神戸大・都市安全セ／理）

P2-45 別府島原地溝帯および周辺における GPS 稠密観測

°中尾 茂（鹿大理工）・松島 健（九大地震火山セ）・大倉敬宏（京大火山研究セ）

P2-46 東海地方における 1996 年から 2010 年までの地殻変動、およびプレート間固着の時間的推移

°落 唯史・加藤照之（東大地震研）

P2-47 海陸地殻変動データに基づく 2005 年 8 月 16 日の宮城県沖の地震（M7.2）に伴う余効すべりの時空間変化推定

°飯沼卓史・三浦 哲・内田直希・日野亮太・松澤 暢（東北大・理）  
佐藤まりこ・齋藤宏彰・石川直史（海洋情報部）

P2-48 熊野灘付加体斜面における海底地殻変動観測

°長田幸仁・木戸元之・藤本博己（東北大学予知セ）

P2-49 海底地殻変動観測で検出された中部琉球海溝軸近傍のプレート間固着域

°中村 衛（琉球大理）・田所敬一・奥田 隆（名古屋大環境）  
安藤雅孝（台湾中央研究院）・渡部 豪（名古屋大環境）・杉本慎吾（川崎地質）  
宮田皓司（八千代エンジニ）・松本 剛・古川雅英（琉球大理）

P2-50 海底地殻変動計測における音響信号の収率低下の原因とその対策

°生田領野（静大理）・田所敬一・渡部 豪・奥田 隆（名大環境）  
杉本慎吾（川崎地質）・藤井昌和（名大理）・佐柳敬造（東海大海洋）

P2-51 箱根火山における地殻歪と浅部地震活動

°原田昌武（温地研）・小林昭夫（気象研）・細野耕司（精密地震観測室）  
伊東 博・明田川保・行竹洋平・本多 亮・吉田明夫（温地研）

P2-52 新たなボアホール地殻活動連続観測に向けて - 東濃地震科学研究所 陶史の森地殻活動総合観測点の新設 -

°浅井康広・石井 紘（東濃地震科研）

P2-53 気象庁歪計を用いた震央位置の推定

°吉田康宏（気象研）

P2-54 フィリピン・マニラ首都圏南部のマリキナ断層における断層クリープの連続観測（その 2）

°栗田勝実（都立産技高専）・衣笠善博（地震予知総合研究振興会）・出口知敬（日鉄鉦コンサルタント）

大村 誠 (高知女子大学)・RIMANDO E. Rolly・PAPIONA L. Kathleen (PHIVOLCS)

- P2-55 能登半島北部の重力異常  
°澤田明宏・平松良浩・水林 侑・河野芳輝 (金沢大)・浜田昌明 (北陸電力)
- P2-56 移動体上に搭載する簡易相対重力計のための支持機構について  
盛川 仁・°徳江 聡・今枝佑輔 (東工大)・松田滋夫 (クローバテック株式会社)
- P2-57 フォースバランス型加速度計を用いた船上重力測定  
盛川 仁・°松尾寛子 (東工大総理工)・松田滋夫 (クローバテック (株))  
駒澤正夫 (産総研)・楠本成寿 (富山大理工)
- P2-58 月周回探査機「かぐや」の測月観測：観測・成果・データ公開  
°石原吉明・松本晃治・ホーセンス サンダー・荒木博志・野田寛大 (国立天文台)  
並木則行 (千葉工大)・岩田隆浩 (宇宙航空研究開発機構)・菊池冬彦・花田英夫 (国立天文台)  
劉 慶会・河野宣之 (上海天文台)・田澤誠一・佐々木晶 (国立天文台)
- P2-59 褶曲に関連した珪質堆積岩の密度と透水性の特徴 - 幌延地域大曲断層の検討事例 -  
°野原 壯・常盤哲也・山田 治 (原子力機構)

#### 活断層・歴史地震

- P2-60 斜めずれ断層系の発達過程および変位地形の形成過程 - 断層模型実験による検討 -  
°上田圭一 (電力中央研究所)
- P2-61 西暦 869 年貞観地震の波源モデル：福島県沖も含めた検討  
°行谷佑一 (産総研活断層)・佐竹健治 (東大地震研)・山木 滋 (シーマス)
- P2-62 1895 年及び 1921 年茨城県南部の地震の震源・発震機構  
°石辺岳男・佐竹健治・島崎邦彦・西山昭仁 (東大地震研)
- P2-63 三つの関東地震を示す三浦半島小網代湾干潟の津波堆積物  
°島崎邦彦・金 幸隆 (東大地震研)・千葉 崇 (東大院新領域)・石辺岳男 (東大地震研)  
松岡裕美・岡村 眞 (高知大理)・都司嘉宣・佐竹健治 (東大地震研)
- P2-64 ひずみ集中帯における強震動予測 - 1828 年三条地震による検証 -  
°石瀬素子・瀬瀬一起・三宅弘恵 (東大地震研)
- P2-65 奥能登地域における微動アレー探査：歴史地震の震源断層の見立てに向けて  
°堀川晴央 (産総研)・杉山長志・馮 少孔 (中央開発)・徳丸哲義 (徳丸技術士事務所)
- P2-66 能登半島輪島東部の離水海岸地形と 1729 年の地震  
°平松良浩 (金沢大)・浜田昌明・服部貴志 (北陸電力)・山口弘幸 (大和地質研究所)
- P2-67 チベット高原北縁 Kumkuli 盆地の変動地形  
°白濱吉起・池田安隆 (東京大学)・岡田真介 (産業技術総合研究所)

#### 地盤構造・地盤震動

- P2-68 常時微動の自己相関関数から求めた減衰特性の性質  
°毛利拓治・古本宗充 (名古屋大学)・森田裕一 (東大地震研)
- P2-69 全国周期別ゆれやすさマップの試作 - ゆれやすさ係数の特徴 -  
°鈴木晴彦 (応用地質)・松浦律子・古村美津子 (地震予知振興会)
- P2-70 能代・秋田堆積盆北東部における微動アレー探査  
°吉見雅行 (産総研活断層セ)・水田敏彦 (秋田工業高専)
- P2-71 関東地方の地震観測点における揺れ易さの評価と地形・表層地質の分類による考察  
°喜井洋満・泉谷恭男 (信州大工)
- P2-72 関東平野の修正 S 波速度構造モデルによるやや長周期地震動シミュレーション  
°山田伸之 (福岡教育大)・山中浩明 (東京工業大)
- P2-73 2006 年伊豆半島東方沖の地震による東京湾岸のやや長周期地震動特性  
°東 貞成・佐藤浩章 (電力中央研究所)・植竹富一・引間和人 (東京電力)
- P2-74 茨城県常総市における二重 mode SPAC 法の野外実験 (既存微動記録の再解析 +  $\alpha$ )

- °横井俊明（建築研国地センター）・林 宏一（応用地質）
- P2-75 千葉県における常時微動観測による S 波速度構造モデルの推定  
°先名重樹・森川信之・河合伸一・大井昌弘・藤原広行（防災科研）
- P2-76 越後平野における微動アレー探査  
°堀川晴央（産総研）・杉山長志・馮 少孔（中央開発）・徳丸哲義（徳丸技術士事務所）
- P2-77 柏崎刈羽原子力発電所における高密度強震観測記録のコヒーレンス解析  
°植竹富一・徳光亮一・引間和人（東京電力）・東 貞成・佐藤浩章（電中研）
- P2-78 福井平野東縁断層帯を横切る反射法測線の微動 H/V 探査  
°安井 譲・橋本勇一・稲垣恭輔・小竹原明啓・堀川晋壱（福井工大）・長 郁夫（産総研）
- P2-79 御前崎市東部における微動 H/V スペクトル比の空間分布  
°上林宏敏・末永浩二・原田 怜・川辺秀憲・釜江克宏（京大原子炉）
- P2-80 1891 年濃尾地震の激震域における微動 H/V スペクトル比の特徴  
°栗山雅之・佐藤浩章（電力中央研究所）
- P2-81 大阪堆積盆地における上下動応答計算のための浅層地盤構造モデル  
°大西良広（地盤研究財団）
- P2-82 常時微動観測による鳥取平野湖山池周辺の地盤構造推定  
°石田勇介・伊藤 圭・野口竜也・香川敬生（鳥取大学）
- P2-83 島原半島地域における微動 H/V スペクトル比を用いた地盤構造推定  
°糸谷夏実・松島 健（九州大）
- P2-84 先島諸島における S 波速度構造探査  
°山田伸之（福岡教育大）・竹中博士・奥平良太・後藤史紀・蔵本稔大（九州大）

#### 地震教育・地震学史

- P2-85 気象庁における地震業務処理技術研修の報告  
°大竹和生（気象研究所）・川上徹人（気象庁地震火山部）・束田進也（東京大学地震研究所）
- P2-86 地震予知に対する中高生の意識調査  
°織原義明（東海大・予知センター）・鴨川 仁（東学大・教育・物理）  
長尾年恭（東海大・予知センター）・上田誠也（日本学士院）

### 10月28日（木） 13:00～14:30 ポスター3日目

#### 新・地震波形解剖学2－Hi-net10年－

- P3-01 長期的 SSE によって加速した深部低周波微動発生域のプレート境界面におけるすべり速度  
°石田亮介・平松良浩（金沢大）・小原一成（東大地震研）・松澤孝紀（防災科研）
- P3-02 Hi-net 傾斜データおよび GEONET データによる 2009-2010 年豊後水道長期的スロースリップイベントのすべり過程  
°廣瀬 仁・木村武志（防災科研）・小原一成（東大地震研）
- P3-03 短期的スロースリップイベントの活動時間に関する特徴  
°木村武志・廣瀬 仁（防災科研）・小原一成（東大地震研）・木村尚紀（防災科研）
- P3-04 地震計鉛直アレイを用いた深部低周波微動活動規模の推定  
°武田直人・今西和俊・小泉尚嗣（産総研活断層セ）
- P3-05 立体アレーを用いた深部低周波地震（LFE）の P 波と S 波の検出  
°鈴木貞臣・大久保慎人（東濃地震科研）・今西和俊・北川有一・武田直人（産総研）
- P3-06 東海スロースリップの監視を目指した Hi-net による豊橋 ACROSS 信号の検出範囲の評価  
°鈴木友理・渡辺俊樹・山岡耕春・國友孝洋（名大）・山崎賢志（三菱石油開発）・生田領野（静大）
- P3-07 断層破壊過程の即時的把握にむけて - 2003 年十勝沖地震への改良 Source-Scanning Algorithm の適用 -  
°青木重樹・吉田康宏・勝間田明男（気象研究所地震火山研究部）

- P3-08 高感度地震観測網による地震メカニズム解決と応力場推定  
 °久保篤規・川谷和夫 (高知大・地震観)
- P3-09 Delay and migration of the 2008 Iwate–Miyagi early aftershocks, observed using a waveform matched-filter technique  
 ° Bogdan Enescu (NIED) · Zhigang Peng (GATECH, US)  
 Kazushige Obara (ERI; NIED) · Tetsuya Takeda (NIED)
- P3-10 Lateral variation of the cutoff depth of the seismogenic layer beneath the Japanese Islands and its contributing factors  
 Aiyimjan Omuralieva, Akira Hasegawa, ° Toru Matsuzawa, Junichi Nakajima,  
 and Tomomi Okada (Tohoku University)
- P3-11 紀伊半島の地震波速度構造  
 °福居大志・澁谷拓郎・中尾節郎・西村和浩・澤田麻沙代 (京大・防災研)・平原和朗 (京大・理)
- P3-12 紀伊半島南部における地殻の異方性構造  
 °雑賀 敦・加藤愛太郎・酒井慎一・平田 直 (東大地震研)
- P3-13 東北地方の3次元地震減衰構造 (その2)  
 °羽田周平・中島淳一・岡田知己・海野徳仁 (東北大学)・速水絵里圭 (気象庁)
- P3-14 レシーバ関数で見る九州地方のフィリピン海スラブ  
 °安部祐希・大倉敬宏・平原和朗 (京大理)・澁谷拓郎 (京大防災研)
- P3-15 1997年鹿児島北西部地震震源域の反射構造と余震分布  
 °武田哲也 (防災科研)・林 広樹 (島根大)・笠原敬司 (東大地震研)・後藤和彦 (鹿児島大)
- P3-16 P wave attenuation structure below the Tokyo Metropolitan area  
 °Y. Panayotopoulos, S. Sakai, S. Nakagawa, K. Kasahara, N. Hirata (Univ. Tokyo, ERI),  
 T. Aketagawa (HSRI), H. Kimura (NIED), C.P. Lee (CPC Corp. Taiwan)
- P3-17 高感度地震観測網で記録した地震波動場:1次元地下構造によるシミュレーションと分散解析  
 °齊藤竜彦 (防災科学技術研究所)
- P3-18 スペクトル要素法を用いた波形インバージョンによる地球内部構造決定 (その2)  
 °坪井誠司・大林政行・東野陽子・末次大輔 (JAMSTEC)
- P3-19 地震・津波観測監視システム (DONET) によるリアルタイム高品質海底地震観測  
 °中野 優・中村武史・藤垂希子・荒木英一郎・川口勝義・坪井誠司・金田義行 (海洋研究開発機構)
- P3-20 地震・津波観測監視システム (DONET) の構築状況と第二期の検討  
 °金田義行・川口勝義・荒木英一郎・松本浩幸・金子 将・中野 優  
 中村武史・有吉慶介・高橋成実・神谷眞一郎・馬場俊孝 (海洋機構)
- P3-21 設置深度を考慮した孔内多成分歪計の原位置キャリブレーション  
 °松本則夫 (産総研)・上垣内修 (気象庁)・北川有一・板場智史・小泉尚嗣 (産総研)

#### 地震発生の物理

- P3-22 2008年岩手・宮城内陸地震の初期余効すべり  
 °横田裕輔・瀬瀬一起・加藤照之 (東大地震研)
- P3-23 粘弾性を考慮した2003年十勝沖地震の余効すべり分布と2004年釧路沖地震との関係  
 °竹村英紀・佐藤利典 (千葉大理)
- P3-24 チリ沖で1985年,2010年に発生した地震の震源過程の比較 - 繰り返し発生する地震のアスペリティは同じか? -  
 °林田拓己・Mori James (京大防災研)
- P3-25 2010年2月27日チリ地震の震源破壊過程の特徴  
 °西村直樹・八木勇治 (筑波大生命環境)
- P3-26 トンガ海溝付近で発生するプレート内大地震の震源過程  
 °小島由記子・八木勇治 (筑波大学大学院)
- P3-27 インドネシア東部の連動型地震と応力場  
 °尹 淳恵・瀬瀬一起・三宅弘恵・横田裕輔・Natalia Poiata (東京大学地震研究所)
- P3-28 2006年ジョグジャカルタ地震の震源断層と破壊過程

°川添安之・瀨瀬一起（東大地震研）

- P3-29 2.5次元差分法による震源過程解析のための構造モデル構築 - 1994年三陸はるか沖地震を対象として -  
岡元太郎（東工大）・原 辰彦（建築研）・西村直樹・八木勇治（筑波大生命環境）
- P3-30 長周期実体波の解析による地震モーメント時間分布の推定  
°原 辰彦（建築研究所）
- P3-31 コーダ振幅比法と位相回復法によるモーメントレート関数の推定  
°内出崇彦（京大防災研・UCSD）・Peter M. Shearer（UCSD）
- P3-32 東北日本の中規模繰り返し地震の分布とそのアスペリティでの特徴的地震活動  
°内田直希・松澤 暢・長谷川昭（東北大理）
- P3-33 2台の歪計から約100mで続発したMw2の震源メカニズムと周辺領域の長期的な応力変化 - 南アフリカ Mponeng  
金鉱山  
°桂泰史・小笠原宏・川方裕則（立命館大学）・中谷正生・直井誠（東京大学）  
矢部康男（東北大学）・安武剛太・山本覚仁（立命館大学）・石井紘（TRIES）  
E. Pinder (ISSI)・G. Morema (Seismogen CC.)・JAGUARS
- P3-34 コーダ波スペクトル比法による極微小地震 (-3<M<-1) のコーナー周波数の推定  
°和田直也・川方裕則・村上 理・小笠原宏・土井一生（立命館大学）・中谷正生（東京大学）  
矢部康男（東北大学）・直井 誠・宮川幸治（東京大学）・吉光奈奈（立命館大学）  
三宅弘恵・井出 哲・五十嵐俊博（東京大学）・G. Morema (Seismogen)・E. Pinder (ISSI)
- P3-35 Off fault stress distribution around dynamic slip pulse on a bimaterial interface with some friction models  
°平野史朗・山下輝夫（東大地震研）
- P3-36 拡張有限要素法 (X-FEM) を用いた弾塑性媒質中の自発的な断層破壊の解析  
°和田一範（京大工）・後藤浩之（京大防災研）
- P3-37 Numerical Modeling of Arrest and Resumption of Dynamic Rupture Propagation at Material Inhomogeneities  
° Koji UENISHI (Res. Ctr. for Urban Safety and Security, Kobe University)
- P3-38 Thermal pressurization を考慮した動的破壊過程と間隙水の相変化  
°浦田優美・久家慶子（京大・理）・加瀬祐子（文部科学省）
- P3-39 四国地域のプレート形状を考慮した地震サイクルにおけるスロースリップイベントの数値モデリング  
°松澤孝紀（防災科研）・芝崎文一郎（建築研）・廣瀬 仁（防災科研）・小原一成（東大地震研）
- P3-40 媒質の粘性と摩擦接触点近傍の幾何形状変化に着目した固着 - すべりの有限要素モデリング  
°兵藤 守・阪口 秀・堀 高峰（海洋研究開発機構 IFREE）
- P3-41 南海トラフ巨大地震サイクルのモデリング - セグメント境界に摩擦不均質を設定したモデルの robust さの検討 -  
°兵藤守・堀 高峰（海洋研究開発機構 IFREE）
- P3-42 地震発生サイクルシミュレーションコードの高速化：(2) Hierarchical Matrices 法の適用  
°平原和朗・大谷真紀子（京大・理）・高橋康人（同志社大・理工）  
堀 高峰・兵藤 守（JAMSTEC）・中島 浩・岩下武史（京大・メディアセンター）
- P3-43 H-matrices を用いた大規模準動的な地震発生サイクルシミュレーション  
°大谷真紀子・平原和朗（京大理）・高橋康人（同志社大理工）  
堀 高峰・兵藤 守（JAMSTEC）・中島 浩・岩下武史（京大 学術情報メ）
- P3-44 成層粘弾性を仮定した南海トラフ地震サイクル中での西南日本内陸地震発生様式のセルモデルシミュレーション  
°鹿倉洋介（京大理）・深畑幸俊（京大防災研）・光井能麻（名大環境）・平原和朗（京大理）
- P3-45 2自由度のバネ-ブロックモデルを用いた複雑な地震サイクルのシミュレーション  
°阿部雄太・加藤尚之（東大地震研）
- P3-46 震源核生成の初期段階における断層面上クリープ伝播を特徴づける無次元パラメータ  
°三井雄太・平原和朗（京大理）
- P3-47 プレート間を縫合している力を説明する実験  
°間瀬博文

## 津波

- P3-48 移動自乗平均津波振幅の簡易時間減衰モデルの設定  
°林 豊 (気象研)・越村俊一・今村文彦 (東北大工)
- P3-49 Proposal of New Procedures for Improved Tsunami Forecast by Applying Coastal-to-Offshore Tsunami Height Ratio  
Weniza (BMKG)・°林 豊 (気象研)・藤井雄士郎 (建築研)
- P3-50 海底圧力・GPS 波浪計データによる近地津波予測  
°対馬弘晃・平田賢治・林 豊・前田憲二 (気象研)・日野亮太・藤本博己 (東北大・理)  
今村文彦 (東北大・工)・谷岡勇市郎 (北大・理)
- P3-51 千島沈み込み帯で発生した 1958 年択捉島沖地震の津波波形解析  
°伊尾木圭衣・谷岡勇市郎 (北大)
- P3-52 宝永地震の際の東海震源域の破壊遅れ - 駿河湾・遠州灘沿岸の津波痕跡高からの推定 -  
°今井健太郎 (東大院情報学環)・西山昭仁 (東大地震研)・前田拓人 (東大院情報学環)  
石辺岳男・佐竹健治 (東大地震研)・古村孝志 (東大院情報学環)
- P3-53 地震・津波観測監視システム (DONET) による 2010 年マリアナ諸島で発生した地震 (Mw 6.9) に伴う津波の観測  
°中村武史・中野 優・荒木英一郎・松本浩幸・馬場俊孝・川口勝義・坪井誠司・金田義行 (海洋機構)
- P3-54 ひずみ計で観測された 2009 年サモア・トンガ地震の S 波到着前に見られるゆっくりとした変動  
°高橋浩晃・山口照寛 (北大理地震火山センター)・三浦 哲・立花憲司・出町知嗣 (北大理地震噴火予知センター)

## 変動地形学の挑戦：活断層から地震動へ

- P3-55 2004 年スマトラ島沖地震とは異なるタイプの隆起イベントを記録したアンダマン諸島ニール島の海岸段丘  
°穴倉正展 (産総研活断層)・Javed N Malik (インド工科大)・池田安隆 (東大理地惑)  
越後智雄 (地域地盤財団)・茅根 創 (東大理地惑)・佐竹健治 (東大地震研)
- P3-56 変動地形が示す歴史地震の痕跡 - 会津盆地西縁断層帯の事例 -  
°水本匡起・松浦律子・田力正好・松田時彦 (地震予知振興会)
- P3-57 奥羽脊梁山脈東縁、仙北平野周辺の変動地形と活構造  
°田力正好・水本匡起・松田時彦・松浦律子 (地震予知総合研究振興会)・今泉俊文 (東北大学)・横山隆三 (岩手大学)
- P3-58 平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震震源域における河成段丘の分布からみた地殻変動と航空レーザー測量による地表変位との比較  
°佐々木俊法 (電力中央研究所)・後藤憲央・柳田 誠 (阪神コンサル)  
青柳恭平・上田圭一・井上大榮・阿部信太郎 (電力中央研究所)

## 地震予知

- P3-59 原発災害とその回避案  
°高橋耕三 (元通信総合研)
- P3-60 F-net の連続波形画像に観測される長周期振動 (その 2)  
°末 芳樹
- P3-61 大地震予測の評価のための相場確率  
°庄 建倉・尾形良彦 (統数研)
- P3-62 1946 年南海地震前の上下変動を示唆する目撃証言  
°梅田康弘・板場智史 (産総研活断層セ)
- P3-63 海外の M7 前後から大型地震に先行する「一時的規則微動」の発見と全記録～2004 スマトラ沖地震から 2010 青海省地震まで～  
°今津美智子 (無所属：地震くるみる)

## 地震に伴う諸現象

- P3-64 1995 年兵庫県南部地震と局所的な地磁気全磁力変動の関連についての検討  
°山崎健一 (京大防災研)・坂中伸也 (秋田大工学資源)
- P3-65 InSAR 解析による地震地下水応答検出の可能性  
°田中俊行・浅井康広 (東濃地震科研)

## 地震の理論・解析法

- P3-66 高速度不均質性媒質での地震波伝搬における因果律からのずれと多重散乱の関係  
°蓬田 清 (北大理)・河原 純 (茨城大理)
- P3-67 速度不連続がある多層ランダム媒質におけるベクトル波エンベロープ導出  
°江本賢太郎・佐藤春夫・西村太志 (東北大・理)
- P3-68 Separation of intrinsic and scattering seismic attenuation in the Northeast India region  
°Simanchal Padhy (National Geophysical Research Institute, Hyderabad; Interfaculty Initiative in Information Studies, The University of Tokyo, Japan; Earthquake Research Institute, The University of Tokyo, Japan)
- P3-69 Coda-Q と弾性体に働く応力との関係  
°岡本京祐・三ヶ田均・後藤忠徳・武川順一 (京大院工)
- P3-70 ハスケル行列法による大気・固体地球結合系のモード計算  
°綿田辰吾 (東大地震研)
- P3-71 要素サイズ可変型 FEM による動的地震サイクルシミュレーションの試み  
°後藤浩之 (京大防災研)
- P3-72 Staggered grid 差分法による弾性静的問題  
°宮武 隆 (東大地震研)
- P3-73 広帯域 P 波モーメントマグニチュード (Mwp) に対する有限断層長と破壊伝播の影響  
原 辰彦 (建築研究所)・°西村直樹 (筑波大生命環境)
- P3-74 効率的な 3 次元波形インバージョン手法の開発  
°富士延章 (ミデイ・プレネー観測所)・シュヴローセバスチャン (ミデイ・プレネー観測所)  
ゲラーロバート (東大地惑)・河合研志 (東工大地惑・パリ地球物理研究所)・趙 里 (中研院地球所)
- P3-75 やや長周期地震動の差分計算における人工反射波に関する検討 - 2 次元計算での基礎的検討 -  
°松元康広 (構造計画研究所)・古村美津子 (地震予知総合研究振興会)  
司 宏俊・西條裕介 (構造計画研究所)・松浦律子 (地震予知総合研究振興会)
- P3-76 2010 年 2 月 27 日チリ地震 (Mw8.8) の地球シミュレータによる理論地震波形計算  
°坪井誠司・中村武史 (海洋研究開発機構)
- P3-77 コーダ波干渉法による浅間山直下の位相速度の時間変化  
°長岡 優・西田 究・青木陽介・武尾 実 (東大地震研)
- P3-78 山崎断層地下構造探査のための地震波干渉法の適用  
°宮澤理稔 (東大地震研)